

科目名	現代日本語	時期	1年前期	担当者	林 裕佳
		単位数	1	実務経験 内容	
		時間数	15		
科目目標	国語の基礎である「我が国の言語文化」に関する知識・技能の習得をめざす。具体的には、文字・表記・語句・文・文章・言葉遣いに関する力の高度化を図る。話すこと、聞くことに関連して、敬語の適切な使用、過不足のないスピーチ、傾聴の姿勢ができるようになる。また、書くことに関連して、語彙を増やし、簡潔で論理的な文章が書けるようになる。さらに、読むことにに関して、要約し文章の主旨を捉えられるようになる				
回数					方法
1	日本語の書式（縦書き・横書きの要点）、漢字の楷書・行書				講義
2	傾聴の意義と方法（言語、非言語）				講義
3	敬語の適切な使用（尊敬語、謙譲語、丁寧語）				講義
4	要約の方法				講義
5	説明・表現の技法（事実・意見・根拠）				講義
6	日本語の語彙①（慣用句・ことわざ・故事成語）				講義
7	日本語の語彙②（同音異義語・同訓異字・対義語）				講義
8	確認試験、講義のまとめ				
受講上の注意	適切な日本語使用のできる医療従事者を目指し、学習内容と医療行為との関連づけを行うことも大切である。			評価方法 終講試験 100点	
テキスト 参考書 など	（参考書）『新しい国語表記ハンドブック 第八版』				
備考					

科目名	論理学	時期	1年後期	担当者	青山 究
		単位数	1	実務経験 内容	
		時間数	30		
科目目標	文章の論理的な構造が理解できて、論理的に正しい思考（推論といいます）が行えるように勉強する。結果として正しい日本語が運用できるようになる				
回数	学習内容				方法
1	あいまいな表現 「AであるBのC」タイプ				講義
2	「AであるBおよび（または）C」タイプ 「Aおよび（または）BのC」タイプ				講義
3	「AはBのようにCでない」「AはBかつCでない」タイプ				講義
4	量化詞と否定				講義
5	量化詞を含むあいまいな表現				講義
6	命題文と論理文				講義
7	論理式と否定記号				講義
8	二重否定の原理、背理法				講義
9	全称記号、二重全称量化				講義
10	存在記号、二重存在量化				講義
11	量化子と否定				講義
12	異種量化子による二重量化				講義
13	かつ記号、または記号、否定記号、それらの関係				講義
14	ならば記号、三段論法、逆と対偶				講義
15	総括及び終講試験				
受講上の注意				評価方法 平常点（授業中の演習とレポート）30点＋筆記試験70点	
テキスト 参考書 など	使用しない				
備考					

科目名	哲学	時期	1年前期	担当者	外園 幸一
		単位数	1	実務経験 内容	
		時間数	15		
科目目標	西洋の哲学史を鳥瞰することによって、人間観の類型を整理する。その思考作業を通じて現代における様々な思想の特徴を理解し、自分を含めた人間の生き方について考察を深める				
回数	学習内容				方法
1	愛の定義。愛と感情。肯定的・否定的感情。愛の展開。愛の本質。				講義
2	愛の目的。好意の発展。愛の関係。調和としての愛。愛と自由。				講義
3	プラトンのエロス論。哲学的愛としてのエロス。エロスと少年愛。プラトニック・ラブについて。				講義
4	アリストテレスのフィリア論。フィリアとエロス。友愛について。三種のフィリア。恋愛について。				講義
5	キリスト教のアガペー。神の愛。創造神話。イエス・キリスト。アカペーの三相。隣人愛。				講義
6	儒教と仁。孔子の徳治主義。徳目としての仁。仁とアガペー。友に対する考え方。仁と家族愛。				講義
7	仏教の慈悲。科学と仏道。縁起説。不殺生と慈悲心。生命観の対比。				講義
8	慈悲の厳しさ。仏陀の言葉の条件。慈悲の三相。 筆記試験				
受講上の注意				評価方法 平常点と筆記試験（講義最終日のレポート） 受講態度30点＋レポート70点	
テキスト 参考書 など	テキスト	教科書は使用せず、毎回プリントを配布 参考書 外園幸一 哲学・倫理学講義概説 高城書房			
備考					

科目名	情報リテラシー	時期	1年前期	担当者	中塚 康文	
		単位数	1	実務経験 内容		
		時間数	30			
科目目標	コンピュータシステムの構成やコンピュータネットワークの概要について学習し、あわせてインターネットの情報収集能力や基本ソフトウェア（ワープロ・表計算・プレゼンテーション）の活用など、情報化社会へ対応できる能力を身につける					
回数	学習内容				方法	
1	情報科学の基礎（Word、リボン他）				講義	
2	コンピュータの基本操作（タブとリーダー、箇条書きと段落番号他）				講義	
3	コンピュータの基本操作（テキストボックス、縦書き他）				講義	
4	コンピュータの基本操作（目次の作成、図の挿入と使い方）				講義	
5	コンピュータの基本操作（Excel、オートフィル、オートコンプリート、セル使い計算式）				講義	
6	コンピュータの基本操作（書式設定他）				講義	
7	コンピュータの基本操作（列・行の挿入と削除、書式のコピー）				講義	
8	縦棒グラフ・横棒グラフ・円グラフ				講義	
9	データ参照FALSE、データ参照TRUE				講義	
10	スライド作成				講義	
11	スライド作成の編集（ワードアート・SmartArt・画像の挿入）				講義	
12	画像切り替え、アニメーション、図形効果、スライドショー				講義	
13	発表				講義	
14	Word（ビジネス文書、編集他）				講義	
15	終講試験					
受講上の注意				評価方法 終講試験 100点		
テキスト 参考書 など	30時間でマスターOffice 2021 Windows11対応					
備考						

科目名	鹿児島島の自然と暮らし	時期	1年前期	担当者	寺田 仁志
		単位数	1	実務経験 内容	
		時間数	15		
科目目標	看護職は、豊かで時として厳しい自然の中で暮らす生活者の一人として、地域の自然や歴史、文化を理解した上で行動することが大切である。鹿児島島の豊かな自然の中で生まれてきた歴史、文化、そこで暮らす人々の気質や心情等を理解し患者に寄り添う看護をめざす				
回数	学習内容				方法
1	鹿児島島の位置と自然環境・鹿児島島の火山と人の歴史				講義
2	鹿児島島の食文化と植物 1（鹿児島島の団子・芋の話）				講義
3	鹿児島島の食文化と植物2（特産物）・鹿児島島の草花遊び				講義
4	鹿児島島の祭と行事・鹿児島島の里山				講義
5	鹿児島島の有形文化財・城山の自然と歴史				講義
6	鹿児島島の妖怪・鹿児島島の気象				講義
7	世界自然遺産とジオパーク・鹿児島島の天然記念物				講義
8	鹿児島島の明治維新と近代化産業遺産				講義
受講上の注意	地域の行事や伝統などに興味・関心を持ち、生活している人々を取り巻く自然について考える			評価方法 授業ごとのレポート	
テキスト 参考書 など	かごしま文化財事典、鹿児島島植物記、新聞記事等				
備考					

科目名	心理学	時期	1年前期	担当者	森 実紀
		単位数	1	実務経験 内容	
		時間数	30		
科目目標	医療・看護領域において必要な心理学の知識を学び、その知識を実際の看護の現場、対人関係においてどのように利用するかを考える				
回数	学習内容				方法
1	心理学とは 心理テスト（エゴグラム）				講義
2	感覚と知覚①				講義
3	感覚と知覚②				講義
4	記憶①				講義
5	記憶②				講義
6	学習①				講義
7	学習②				講義
8	感情と動機づけ				講義
9	性格とパーソナリティ①				講義
10	性格とパーソナリティ②				講義
11	社会と集団				講義
12	発達				講義
13	ストレス				講義
14	心の障害と支援				講義
15	終講試験及び総まとめ				
受講上の注意				評価方法 授業態度、振り返り、筆記試験等により総合的に評価する	
テキスト 参考書 など	系統看護学講座 基礎分野 心理学 医学書院 講義の中で適宜紹介する				
備考					

科目名	国際文化論	時期	2年全期	担当者	森 孝晴
		単位数	1	実務経験 内容	
		時間数	30		
科目目標	21世紀のいま、誰にとっても国際的視野は一般人としても必要である 文化比較を中心にして世界文化を読み解く力を養う				
回数	学習内容				方法
1	国際文化とは何か？ なぜ文化を比較するのか？				講義
2	アイデンティティとは何か？ ステレオタイプとは？ カルチャーショックとは？				講義
3	性別や人種と差別、その日米の違い 1				講義
4	性別や人種と差別、その日米の違い 2				講義
5	性別や人種と差別、その日米の違い 3				講義
6	性別や人種と差別、その日米の違い 4				講義
7	格差社会と階級、日米の共通点				講義
8	暴力・戦争と日米の違い				講義
9	鹿児島とカリフォルニア、薩摩とイギリス 1				講義
10	鹿児島とカリフォルニア、薩摩とイギリス 2				講義
11	鹿児島とカリフォルニア、薩摩とイギリス 3				講義
12	日本人とアメリカの「夢」				講義
13	日本人とアメリカ人の「食」「車」				講義
14	グローバルなものの見方と国際交流のコツ				講義
15	終講試験及び振り返り				
受講上の注意				評価方法 授業態度、振り返り、筆記試験等により総合的に評価する	
テキスト 参考書 など	プリント配布 「ジャック・ロンドンと鹿児島」 森 孝晴著 高城書房				
備考					

科目名	人間関係論	時期	1年前期	担当者	畑田 惣一郎
		単位数	1	実務経験 内容	
		時間数	30		
科目目標	看護師としての職務を遂行するために必要な対人関係スキルを体系的に学びます。患者やその家族、医療チームとの効果的なコミュニケーションを築くための理論と実践を習得することを目指します。特に、自己理解、他者理解、共感、コミュニケーションスキルを中心に、看護現場でのリーダーシップチームワークの重要性を学び、医療現場での円滑な人間関係を構築する力を養います。				
回数	学習内容				方法
1	オリエンテーション、人間関係とは何か				講義
2	自己理解と他者理解				講義
3	対人関係と役割				講義
4	集団と個人				講義
5	コミュニケーション				講義
6	カウンセリングと心理療法				講義
7	コーチング				講義
8	アサーティブコミュニケーション				講義
9	保健医療チームの人間関係				講義
10	患者を支える人間関係				講義
11	家族を含めた人間関係				講義
12	地域をつくる人間関係				講義
13	ソーシャルインクルージョンと共生社会				講義
14	バリアフリーと障害者差別解消法				講義
15	終講試験				試験
受講上の注意	2/3以上の出席を前提とする。			評価方法 受講態度・振り返り、終講試験等を総合的に評価する。	
テキスト 参考書など	系統看護学講座 基礎分野「人間関係」医学書院				
備考					

科目名	カウンセリング論	時期	1年後期	担当者	清原 浩
		単位数	1	実務経験 内容	
		時間数	15		
科目目標	1. カウンセリングを構成している重要な要素の理論的説明とその要素を使用して、実際に対話してみる実技を通してカウンセリングの全体像を把握できるようにする 2. カウンセリングの理論と実技を学習することを通じて円満にして深い人間像を構築する力を形成することを目的とする 3. カウンセリングの理論と実技の基本を習得することを目標とする				
回数	学習内容				方法
1	カウンセリングとは何か				講義
2	人の話に含まる3要素				講義
3	カウンセリングの聴き方 ー受動的な聴き方ー				講義
4	カウンセリングの聴き方 ー能動的な聴き方ー				講義
5	こちらからの質問の仕方と相手からの質問への答え方				講義
6	カウンセリング的対話の6要素				講義
7	カウンセリング的対話の深さ				講義
8	カウンセリングの全体像と筆記試験				
受講上の注意				評価方法 出席回数、受講態度、筆記試験	
テキスト 参考書 など	「やさしく学ぶカウンセリング 26のレッスン」 長尾博著 金子書房				
備考					

科目名	家族社会学	時期	1年後期	担当者	新名主 雪江
		単位数	1	実務経験	
		時間数	30	内容	
		大学等で、家族社会学を教授した経験をもとに講義を行う。			
科目目標	患者にも看護師にも身近な存在である家族を客観的に捉える見方、考え方を理解する。家族と社会の関係の変化と現状を知り、自身の家族経験を「絶対」のものとししない考え方を知る				
回数	学習内容				方法
1	人間にとって家族とはどんな存在か				講義
2	「家族」の観察のための基本概念。近代以降、日本の家族制度				講義
3	世帯に見る日本の家族構成の変化				講義
4	「家族機能」という見方。家族機能の変化				講義
5	家族と外部社会の相互作用。戦後、核家族の特徴				講義
6	単独世帯の増加と社会の対応の課題				講義
7	現代日本の少子化の到達点とその背景				講義
8	少子社会の家族と子育て環境の日本的特徴				講義
9	子ども虐待、子どもの貧困と医療の関わり				講義
10	現代日本の高齢化の到達点。高齢者は誰と暮らしているか				講義
11	高齢者の家族関係。社会的交流関係				講義
12	患者と家族一家族員の病気が家族生活、家族関係に与える影響				講義
13	小規模家族化、単独世帯4割社会に対応する家族のケア能力				講義
14	看護師のケアは患者に対するのか、家族に対するのか				講義
15	終講試験				筆記試験
受講上の注意	レジュメと講義内容と照応させ、必要な箇所はしっかりとノートをとること			評価方法 中間の小テストと 筆記試験で評価する	
テキスト 参考書 など	使用しない				
備考					

科目名	教育学	時期	1年前期	担当者	祁 白麗
		単位数	1	実務経験 内容	
		時間数	30		
科目目標	教育学を構成する基本概念と枠組みについて理解し、教育学の基礎教養を身に付ける。さらに、教育の動向と現状を踏まえ、教育学のこれからの課題についてその論点を知り、自らの考えを論拠をもって表明することができる。				
回数	学習内容				方法
1	教育とは何か				講義
2	教育の対象ー子ども観と発達				講義
3	社会変動と教育				講義
4	教育の組織化ー学校				講義
5	教育を成り立たせるもの①ー教授、訓育				講義
6	教育を成り立たせるもの②ー発達、養護				講義
7	学びの場ー家庭と学校				講義
8	教育の目標と評価				講義
9	教育のメディア				講義
10	教師の専門性と専門職性				講義
11	キャリア教育				講義
12	ジェンダーとセクシュアリティと教育				講義
13	インクルーシブ教育				講義
14	シティズンシップ教育				講義
15	生涯学習				講義
受講上の注意				評価方法 一枚ポートフォリオ 30% 期末試験 70%	
テキスト 参考書 など	木村元編『系統看護学講座 基礎分野 教育学 第8版』医学書院、2021年				
備考					

科目名	医療英会話	時期	1年後期	担当者	マークス・シオボールド
		単位数	1	実務経験 内容	大学の教員として、英語に携わった 経験をもとに講義を行う。
		時間数	30		
科目目標	他国の文化・言語を学び、他国への関心を深め、日常生活の場面でのコミュニケーションを重視した英語表現を学ぶ				
回数	学習内容				方法
1	英語で自己紹介（英作文の基礎）				講義
2	Phonemic chart A Listening test Prefecture Quiz				講義
3	Phonemic chartB Listening test				講義
4	Leon movie Listening test crossword movie				講義
5	Leon movie Listening test crossword movie				講義
6	BBC.com				講義
7	Leon ptⅡ / chapter 1 (test)				講義
8	Leon ptⅢ end Listening test				講義
9	chapterⅡ text book test				講義
10	Coraline（Ⅰ）Listening test				講義
11	chapterⅢ Listening test				講義
12	chapterⅣ text book test				講義
13	chapterⅤ text book test Coraline（Ⅲ）Listening exercise				講義
14	Aardman adventures Wallace + Crommit				講義
15	Test + review（paper + listening）				
受講上の注意				評価方法 Test + review （paper + listening）	
テキスト 参考書 など					
備考					

科目名	医療英語	時期	2 年全期	担当者	スレイウェル マイサム
		単位数	1	実務経験 内容	
		時間数	30		
科目目標	1. 看護における専門用語などを英語でどのように表現されているのかを学ぶ 2. 看護の場面において汎用性の高い口語表現を学習し、会話能力・表現能力を身に付ける 3. 看護に関連する様々な課題について英文資料などを輪読し、医療の現状や海外における看護を取り巻く状況を理解することができる 4. 看護関連の英文資料を読みこなすための基礎力を養うことができる				
回数	学習内容				方法
1	Chapter 8 – 1				講義
2	Chapter 8 – 2				講義
3	Chapter 9 – 1				講義
4	Chapter 9 – 2				講義
5	Chapter 1 0 – 1				講義
6	Chapter 1 0 – 2				講義
7	Chapter 1 1 – 1				講義
8	Chapte 1 1 – 2				講義
9	Chapter 1 2 – 1				講義
10	Chapter 1 2 – 2				講義
11	Chapter 1 3 – 1				講義
12	Chapter 1 3 – 2				講義
13	Review Test 2 -1				講義
14	Review Test 2 -2				講義
15	終講試験				
受講上の注意				評価方法 筆記試験	
テキスト 参考書 など					
備考					

科目名	倫理学	時期	1年前期	担当者	上山 敬補
		単位数	1	実務経験 内容	大学講師として、倫理学に携わった 経験をもとに講義を行う。
		時間数	30		
科目目標	日本看護協会が定める「倫理綱領」は、看護者が「人間の生命、尊厳、および権利を尊重すること」や、「国籍、人権・民族、宗教、信条、性別、経済状態などに関わらず、人々に対して平等に看護を提供すること」などを求めています。つまりここでは「他者の普遍的な尊重」が求められています。この講義を受ける多くの方は、このような綱領に従うことを看護者として、あるいは人間として当然であると直感的に考えるかもしれません。しかし、このような綱領の背後には、過去から現在に至るまでの哲学の長い歴史があります。この講義は、哲学の歴史を学ぶことによって、「他者の普遍的な尊重」を含む、重要ないくつかの道徳原理の意味を受講者が理解することを目指します				
回数	学習内容				方法
1	哲学を学ぶ意味				講義
2	哲学における倫理学の位置 倫理学の課題				講義
3	哲学からの諸学問の離脱と価値観の変遷				講義
4	専門分化して生じた問題 実質的倫理学とメタ倫理学				講義
5	実質的倫理学とメタ倫理学				講義
6	倫理的主観主義 DVD「古代ギリシア黄金時代」の鑑賞				講義
7	ソフィストにより主張された倫理的主観主義 保守的ソフィスト				講義
8	人間の高い同調性による問題 急進的ソフィストと他者の尊重				講義
9	DVD「ヒューマン なぜ人間になれたの」の鑑賞				講義
10	ソクラテスと民主的な議論 プラトンと協働				講義
11	プラトンと分業・女性の活躍				講義
12	プラトンと他者の尊重				講義
13	功利主義とヘルシンキ宣言 自由至上主義と教育、医療				講義
14	自由至上主義と教育、医療 ロールズ正義論				講義
15	総括および終講試験				
受講上の注意				評価方法 筆記試験	
テキスト 参考書 など	テキスト：使用しない 参考書：道徳の哲学者たち ナカニシヤ出版				
備考					

科目名	解剖生理学Ⅰ	時期	1年前期	担当者	中河 志朗
		単位数	2	実務経験 内容	
		時間数	45		
科目目標	ヒトの体の構造および働きの知識を活用しながら、下記の3項目の達成をめざす。 1) ヒトを構成する細胞や、四大組織、さらに外皮系、骨格系、筋系、神経系を構成する器官および器官系の働きが説明できる 2) ヒトの器官の形成や働きに必要な栄養(素)について説明できる 3) ヒトが健康で暮らせ、老化を遅らせる生活上の注意点について説明できる				
回数	学習内容				方法
1	ヒトの体を学ぶための基礎知識：生物進化、ヒトの体の階層性、体液など				講義
2	解剖学用語：解剖学的位置、体位や体の位置関係、ヒトの断面などの用語				講義
3	ヒトの構成単位としての細胞1：細胞膜、核、ミトコンドリア、				講義
4	ヒトの構成単位としての細胞2：小胞体、ゴルジ装置、リソソーム、中心体など				講義
5	ヒトの構成単位としての細胞3：細胞分裂、物質の移動(拡散、ろ過、浸透など)				講義
6	ヒトの四大組織 1：上皮組織、結合および支持組織				講義
7	ヒトの四大組織 2：筋組織、神経組織				講義
8	外皮系の構造と働き：皮膚の形成、皮膚、毛、爪、皮膚腺				講義
9	外皮系の防御系、体温調節				講義
10	骨格系1：骨の形成、骨の構造、骨の連結、関節の動きを示す用語				講義
11	骨格系2：体軸の骨格(頭蓋骨、脊柱、胸郭)				講義
12	骨格系3：上肢の骨格、肩関節、肘関節、橈骨手根関節、手根管				講義
13	骨格系4：下肢の骨格、骨盤、股関節、膝関節、距腿関節、足弓				講義
14	筋系1：骨格筋の形成、骨格筋の構造、筋収縮の機序				講義
15	筋系2：顔面・頭部の骨格筋、体幹の骨格筋				講義
16	筋系3：上肢の骨格筋、下肢の骨格筋				講義
17	神経系1：中枢神経系の形成、脳室、髄膜、脊髄の構造と働き				講義
18	神経系2：31対の脊髄神経、交感神経系、副交感神経系				講義
19	神経系3：脳幹(延髄、橋、中脳)の構造と働き				講義
20	神経系 4：小脳・間脳の構造と働き				講義
21	神経系 5：大脳の構造と働き、脳の高次機能				講義
22	神経系 6：12対の脳神経				講義
23	終講試験				講義
受講上の注意				評価方法 終講試験の成績で評価する	
テキスト 参考書 など	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学 坂井健雄・岡田隆夫著 医学書院				
備考					

科目名	解剖生理学Ⅱ	時期	1年全期	担当者	中河 志朗	
		単位数	2	実務経験		
		時間数	45	内容		
科目目標	大学の授業として、解剖学や生理学に携わった経験をもとに講義を行う。					
	ヒトの体の構造および働きの知識を活用しながら、下記の3項目の達成をめざす。					
	1) ヒトを構成する感覚器や、血液・血球、心臓、体の動脈・静脈系、体の防御系、内分泌器官、呼吸器系、消化器系、腎・尿路系、生殖器系の器官および器官系の働きが説明できる					
	2) ヒトの器官の形成や働きに必要な栄養(素)について説明できる					
回数	3) ヒトが健康で暮らせ、老化を遅らせる生活上の注意点について説明できる					
	学習内容				方法	
	1	感覚器：視覚系、聴覚系				講義
	2	感覚器：平衡感覚系、嗅覚系、味覚系				講義
3	血液と血球の働き				講義	
4	心臓・血管の構造と働き、血圧とは？				講義	
5	体の動脈系と静脈系				講義	
6	体の防御系：胸腺、脾臓、リンパ節、リンパ管系				講義	
7	内分泌器官1：脳下垂体、松果体				講義	
8	内分泌器官2：甲状腺、副甲状腺				講義	
9	内分泌器官3：膵臓、副腎				講義	
10	呼吸器系1：鼻腔、咽頭、喉頭、				講義	
11	呼吸器系2：気管支、気管、胸膜				講義	
12	呼吸器系3：肺、縦隔				講義	
13	呼吸器系4：呼吸運動とその調節機構				講義	
14	消化器系1：消化管の基本構造、腹膜、口腔				講義	
15	消化器系2：食道、胃				講義	
16	消化器系3：小腸、大腸、排便調節機構				講義	
17	消化器系4：消化管での食物の消化と栄養素の吸収機構				講義	
18	腎・尿路系1：腎臓、尿管				講義	
19	腎・尿路系2：膀胱、尿道、排尿調節機構				講義	
20	女性の生殖器1：外生殖器の分化、卵巣、卵管				講義	
21	女性の生殖器2：子宮、膣、乳房				講義	
22	男性の生殖器				講義	
23	終講試験				講義	
受講上の注意				評価方法		
				終講試験の成績で評価		
テキスト 参考書	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕 解剖生理学 坂井健雄・岡田隆夫著 医学書院					

など	
備考	

科目名	栄養生化学	時期	1年前期	担当者	塔筋 弘章/太院 モモエ
		単位数	1	実務経験 内容	大学や専門学校の講師として栄養生化学に携わった経験をもとに講義を行う。
		時間数	30		
科目目標	1.化学物質の性状、変化、栄養代謝について学び食事療法の基本を理解する				
	2.主要栄養素がどのように体に取り入れられ、どのように変化し、どのように生命活動のために役立っているのかを理解し、食事療法の意義を知る				
回数					方法
1	タンパク質の機能・構造、脂肪酸、ステロイド				講義
2	脂質（中性脂肪・リン脂質）、糖質				講義
3	核酸、ビタミン				講義
4	DNAの複製、遺伝子の発現				講義
5	生体膜の構造、糖質代謝				講義
6	脂質代謝、アミノ酸代謝				講義
7	アイソザイム、エネルギー代謝の統合				講義
8	遺伝病、生化学的分析方法、終講試験				講義・ 終講試験
9	オリエンテーション、健康と栄養、BMI計算				講義
10	食物と栄養 その1				講義
11	食物と栄養 その2				講義
12	日本人の食事摂取基準				講義
13	ライフステージと健康教育				講義
14	疾患と栄養				講義
15	食事療法 2) 終講試験及び振り返り				終講試験
受講上の注意					評価方法 1) 筆記試験、2) 出席点10%+ 小テスト20%+筆記試験70%
テキスト 参考書 など	ナーシンググラフィカ 人体の構造と機能② 臨床生化学 メディカ出版 専門基礎分野 栄養学 人体の構造と機能3 医学書院				
備考					

科目名	病理学総論	時期	1年前期	担当者	高城 千彰
		単位数	1	実務経験 内容	医師として、総合病院での臨床経験を もとに講義を行う。
		時間数	30		
科目目標	1. 細胞・組織・臓器の基本的な病的変化を理解して、疾病それぞれの形態と機能の変化を学ぶ 2. 先天異常、循環障害、炎症と免疫、癌について理解し、看護に必要な疾病の基礎を学ぶ				
回数	学習内容				方法
1	病理部について				講義
2	病理学総論とは 組織まとめ（1）				講義
3	組織まとめ（2） 細胞・組織の障害と修復（1）				講義
4	細胞・組織の障害と修復（2） 循環障害（1）				講義
5	循環障害（2）				講義
6	循環障害（3） 炎症（1）				講義
7	炎症（2） 免疫（1）				講義
8	免疫（2） 感染症（1）				講義
9	感染症（2）				講義
10	代謝障害				講義
11	老化と死				講義
12	先天異常と遺伝子異常（1）				講義
13	先天異常と遺伝子異常（2） 腫瘍（1）				講義
14	腫瘍（2）				講義
15	テスト ハンセン病について				
受講上の注意				評価方法 筆記試験	
テキスト 参考書 など	系統看護学講座 専門基礎分野 病理学 医学書院				
備考					

科目名	病態生理学	時期	1年全期	担当者	四俣芳子
		単位数	1	実務経験 内容	
		時間数	30		
科目目標	解剖生理学、病理学総論の知識をもとに、病理学的変化（病変）によりもたらされる症候についての理解を深め、看護実践のエビデンスに活用する				
回数	学習内容				方法
1	チアノーゼのメカニズムと対処（チアノーゼの原因と症状を理解し、看護を考えることができる）				講義
2	吐血・喀血・下血のメカニズムと対処（吐血・喀血・下血の原因と症状を理解し、看護を考えることができる）				講義
3	便秘と下痢のメカニズムと対処（便秘と下痢の原因・種類と症状を理解し、看護を考えることができる）				講義
4	悪心・嘔吐のメカニズムと対処（悪心と嘔吐の原因・種類と症状を理解し、看護を考えることができる）				講義
5	黄疸のメカニズムと対処（黄疸の原因と症状を理解し、看護を考えることができる）				講義
6	TBL（課題とテスト）症候論で学んだ知識を活用して各症状の原因とメカニズムを関連付けて理解できる				講義
7	浮腫のメカニズムと対処（浮腫の原因と症状を理解し、看護を考えることができる）				TBL
8	脱水のメカニズムと対処（脱水の原因・種類と症状を理解し、看護を考えることができる）				講義
9	ショックのメカニズムと対処（ショックの原因・種類と症状を理解し、看護を考えることができる）				講義
10	胸痛のメカニズムと対処（胸痛の原因・種類と症状を理解し、看護を考えることができる）				講義
11	不整脈のメカニズムと対処（不整脈の原因・種類と症状を理解し、看護を考えることができる）				講義
12	乏尿・無尿・頻尿のメカニズムと対処（乏尿・無尿・頻尿の原因・種類と症状を理解し、看護を考えることができる）				講義
13	TBL（課題とテスト）症候論で学んだ知識を活用して各症状の原因とメカニズムを関連付け手理解できる				TBL
14	心不全の病態理解と看護				講義
15	心不全の事例を基に病態関連図作成				講義
受講上の注意	事前学習：事前に指定したところを学習して授業に参加する 講義：講義を通して事前学習課題の学びを深め、看護に役立つ知識を獲得する ポストテスト：講義終了時試験　TBLは事前学習＋個人テスト＋チームテスト			評価方法 各講義終了時のポストテスト5点×11 TBL 15点×2　病態関連図15点	
テキスト 参考書 など	『病態生理学』メディカ出版 『スタディガイド』照林社				
備考	解剖生理学、病理学総論の復習をしておくこと 事前学習（ワークシート）を怠らず出席してしっかり授業に参加すること				

科目名	疾病と治療Ⅰ (呼吸器・循環器)	時期	1年全期	担当者	徳留 京子 医師として、大学病院等での診療に携わった経験を もとに講義を行う。
		単位数	1	実務経験 内容	
		時間数	30		
科目目標	1. 各機能に関する病態・診断・治療について学び、看護を展開する知識を習得する 2. 呼吸器、循環器、血液・造血機能に関する病態・診断・治療について学び、看護を展開する基礎的知識を習得する				
回数	学習内容				方法
1	循環器の構造と機能、症状				講義
2	検査と治療（1）				講義
3	検査と治療（2） 心電図の基本				講義
4	検査と治療（3） 不整脈				講義
5	疾患の理解（1） 虚血性心疾患 弁膜症など				講義
6	疾患の理解（2） 心筋炎 心膜炎 血管疾患等				講義
7	循環器疾患をもつ患者の経過と看護				講義
8	検査・治療を受ける患者の看護				講義
9	心臓リハビリテーションと看護				講義
10	呼吸器の解剖と生理 検査				講義
11	かぜ症候群 肺炎 肺結核等				講義
12	間質性肺炎 肺線維症				講義
13	気管支肺炎 COPD 肺梗塞				講義
14	肺がん 無呼吸 過呼吸 復習				講義
15	まとめ 終講試験				講義
受講上の注意				評価方法 筆記試験	
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔2〕 呼吸器 医学書院				
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔3〕 循環器 医学書院				
など	ナーシンググラフィカ 成人看護学④ 周手術期看護 メディカ出版				
備考					

科目名	疾病と治療Ⅱ (消化器、代謝・内分泌、血液・造血器)	時期	1年全期	担当者	年永 隆一/植村 和代/徳留 京子
		単位数	1	実務経験 内容	医師として、大学病院等での診療に携わった経験をもとに講義を行う。
		時間数	30		
科目目標	1. 看護の対象者の抱える消化器系疾病の成因・病態およびそれに対して行われる診断・治療について学ぶ 2. 内部環境を維持する働きの病態およびそれぞれに対して行われる診断・治療について学ぶ 3. 血液・造血機能に関する病態・診断・治療について学び、看護を展開する基礎的知識を習得する				
回数	学習内容				方法
1	消化器疾患 症状 症候 病態生理				講義
2	診断 治療法				講義
3	食道 胃				講義
4	腹壁 十腸 下腸				講義
5	肺 胆 膵				講義
6	内分泌総論 視床下部 下垂体 甲状腺				講義
7	副甲状腺 副腎 性腺 MEN				講義
8	糖尿病総論 検査 治療				講義
9	糖尿病治療（注射） 合併症				講義
10	脂質異常症 高尿酸血症 メタボリックシンドローム				講義
11	血液の成分と機能 造血の仕組み				講義
12	貧血				講義
13	白血病				講義
14	血小板 凝固系の疾患				講義
15	まとめ 終講試験				講義
受講上の注意				評価方法 筆記試験	
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕 消化器 医学書院				
参考書	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔6〕 内分泌・代謝 医学書院				
など	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔4〕 血液・造血器 医学書院				
備考					

科目名	疾病と治療Ⅲ (脳・神経系、 腎・泌尿器)	時期	1年全期	担当者	横山 幸三/内田 洋介
		単位数	1	実務経験 内容	医師として、大学病院等での診療に 携わった経験をもとに講義を行う。
		時間数	30		
科目目標	1. 各機能に関する病態、診断、治療について学び看護を展開する知識を習得する 2. 脳・神経系、腎・泌尿器に関する病態・診断・治療について学び看護を展開する基礎的知識を習得する				
回数	学習内容				方法
1	第1・2章 現在の社会情勢と看護の役割 脳神経系の構造と機能				講義
2	第3・4章 脳神経系の症状、診断、検査、治療概論				講義
3	第5章 疾患の理解1(血管障害、外傷、てんかん)				講義
4	疾患の理解2(変性疾患 ALS パーキンソン病 脊髄小脳変性症 認知症)				講義
5	疾患の理解3(感染症と炎症疾患)				講義
6	疾患の理解4(筋疾患、末梢神経障害の診療 看護)				講義
7	疾患の理解5と在宅療養の看護(在宅看護)				講義
8	終講試験				講義
9	泌尿器生殖 臓器解剖学 について				講義
10	臓器の検査 病態等について				講義
11	解剖 検査学について				講義
12	記録の見方 カテーテル等検査学について				講義
13	国家試験問題の動向、頻出問題の解説				講義
14	終講試験				講義
15	腎・泌尿器総括				講義
受講上の注意				評価方法 筆記試験	
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔7〕 脳・神経 医学書院				
参考書 など	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔8〕 腎・泌尿器 医学書院				
備考					

科目名	疾病と治療Ⅳ (運動機能、生殖器系、 リハビリテーション)	時期	1年全期	担当者	菊野竜一郎/深町信之/村山芳博
		単位数	1		医師や理学療法士として、大学病院等での診療に携わった経験をもとに講義を行う。
		時間数	30		
科目目標	1. 各機能に関する病態、診断、治療について学び看護を展開する知識を習得する 2. 運動機能及び生殖器に関する病態・診断・治療について学び看護を展開する基礎的知識を習得する				
回数	学習内容				方法
1	機能 構造 症状 検査				講義
2	骨折 総論 骨折各論				講義
3	骨折 脱臼各論 実習				講義
4	神経総論 疾患 関節疾患				講義
5	良性・悪性腫瘍				講義
6	頸椎・腰椎疾患				講義
7	手術症例 国試対策試験				講義
8	手術症例 国試対策試験				講義
9	女性生殖器の構造・機能 症状とその病態生理				講義
10	女性生殖器 診療・検査・治療・処理 女性生殖器の機能				講義
11	女性生殖器 良性・悪性疾患 性分化異常				講義
12	女性生殖器 良性・悪性疾患				講義
13	リハビリテーションの意味(狭義・広義) チーム医療・多職種の理解(PT.OT.ST) 関節可動域の理解 人工関節の脱臼防止 等尺・等張性収縮の理解				講義
14	高次脳機能障害(失行・失認) 車イスについて(安全性) 片麻痺患者のベッドw/c移乗動作 更衣動作について				講義
15	杖歩行(二点・三点歩行) 段差昇降 杖の長さ(T字杖、松葉杖)				講義
受講上の注意					評価方法 筆記試験
テキスト 参考書 など	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕 運動器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔9〕 女性生殖器 医学書院				
備考					

科目名	疾病と治療Ⅴ (免疫・皮膚・眼・耳鼻 咽喉・歯・口腔)	時期	1年全期	担当者	徳留 京子/久保 秀通/大山 光子/伊東 祐久/横山 幸三
		単位数	1	実務経験 内容	医師として、大学病院等での診療に携わった経験をもとに講義を行う。
		時間数	30		
科目目標	各機能に関する病態、診断、治療について学び看護を展開する知識を習得する 皮膚・眼・耳鼻咽喉・歯・口腔機能に関する病態・診断・治療について学び看護を展開する基礎的知識を習得する				
回数	学習内容				方法
1	アレルギー・免疫・感染疾患 1. 構造と機能 免疫のしくみ				講義
2	2. 主な症状と病態生理 アナフィラキシー・薬物アレルギー・関節痛・関節炎・レイノー現象・腎炎				講義
3	3. 診断と検査 免疫学的検査・病理組織学検査・画像検査・塗抹・培養検査 4. 主なアレルギー・免疫・感染疾患・膠原病				講義
4	気管支喘息・アトピー性疾患・膠原病・ベーチェット病・熱性疾患・H I V・M R S A・敗血症、真菌感染症・寄生虫				講義
5	5. 治療 ステロイド療法・減感作療法・免疫抑制剤・理学療法・薬物療法・感染防止				講義
6	1. 皮膚科疾患 2. 病状と病態生理 (かゆみ・発疹)				講義
7	3. 検査 (パッチテスト・皮内反応) 4. 主な疾病と治療 (皮膚癌・熱傷)				講義
8	1. 眼科疾患 2. 病状と病態生理				講義
9	3. 検査				講義
10	4. 主な疾患と治療 (結膜疾患・眼底疾患・水晶体疾患・眼圧の異常)				講義
11	1. 耳鼻咽喉科疾患 2. 病状と病態生理 難聴、鼻出血				講義
12	3. 検査 4. 主な疾患と治療 メニエール病、老人性難聴、慢性副鼻腔炎、咽頭炎				講義
13	1. 歯・口腔疾患 2. 症状と病態生理 (う蝕、悪性腫瘍)				講義
14	3. 検査 4. 主な疾患と治療 (う蝕、悪性腫瘍)				講義
15	総括及び終講試験				
受講上の注意				評価方法 筆記試験	
テキスト 参考書 など	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学〔11〕	アレルギー・膠原病・感染症	医学書 院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学〔12〕	皮膚	医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学〔13〕	眼	医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学〔14〕	耳鼻咽喉	医学書院
	系統看護学講座	専門分野Ⅱ	成人看護学〔15〕	歯・口腔	医学書院
備考					

科目名	疾病と治療Ⅵ (小児に特徴的な 機能障害)	時期	2年前期	担当者	楠生 亮 医師として、大学病院等での診療に 携わった経験をもとに講義を行う。
		単位数	1	実務経験 内容	
		時間数	15		
科目目標	1. 小児疾患の病態・診断・治療について学び、看護を展開する知識を習得する 2. 小児疾患の病態・診断・治療について学び、成長発達段階に合わせた看護を展開するうえで必要な知識を習得する				
回数	学習内容				方法
1	染色体異常・胎内環境により発症する先天異常 新生児の疾患				講義
2	代謝性疾患 運動器疾患				講義
3	アレルギー疾患 腎・泌尿器疾患				講義
4	感染症 呼吸器疾患				講義
5	循環器疾患				講義
6	消化器疾患				講義
7	血液・造血器疾患 悪性新生物				講義
8	神経疾患 総括及び終講試験				講義
受講上の注意				評価方法 筆記試験	
テキスト 参考書 など	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論 医学書院				
備考					

科目名	疾病と治療Ⅶ (精神機能障害)	時期	1年全期	担当者	植村 彰
		単位数	1	実務経験 内容	
		時間数	15		
科目目標	精神障害に関する病態、診断、治療について学び看護を展開する知識を習得する 精神障害に関する病態、診断、治療について学び看護を展開する基礎的知識を習得する				
回数	学習内容				方法
1	精神症状論と状態像：さまざまな精神症状				講義
2	精神障害の診断と分類：統合失調症				講義
3	精神科での治療：精神療法				講義
4	気分障害(双極性感情障害および関連障害群、抑うつ障害群)				講義
5	精神科での治療：薬物療法				講義
6	精神科での治療：電気けいれん療法、社会療法他				講義
7	精神症状論と状態像：精神科での治療				講義
8	終講試験				
受講上の注意				評価方法 筆記試験	
テキスト 参考書 など	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 精神看護学〔1〕 精神看護の基礎 医学書院				
備考					

科目名	微生物学	時期	1年前期	担当者	中馬 浩子
		単位数	1	実務経験 内容	
		時間数	30		
科目目標	微生物の特徴と生体への影響を学び、生体の安全、健康の保持増進をはかるための知識を習得する 感染防御学の基礎知識を学ぶ				
回数	学習内容				方法
1	第1章 微生物と微生物学 第2章 細菌の性質				講義
2	第2章 細菌の性質 第3章 真菌の性質				講義
3	第3章 真菌の性質 第4章 原虫の性質 第5章 ウイルスの性質				講義
4	第5章 ウイルスの性質 第6章 感染と感染症				講義
5	第6章 感染と感染症				講義
6	第7章 感染に対する生体防御機構 自然免疫				講義
7	第7章 感染に対する生体防御機構				講義
8	第7章 感染に対する生体防御機構 第8章 感染経路からみた感染症				講義
9	第8章 感染経路からみた感染症 第13章 病原細菌と細菌感染症				講義
10	第13章 病原細菌と細菌感染症				講義
11	第13章 病原細菌と細菌感染症 第14章 病原真菌と真菌感染症				講義
12	第15章 病原原虫と原虫感染症 第16章 病原ウイルスとウイルス感染症				講義
13	第16章 病原ウイルスとウイルス感染症 第9章 消毒と滅菌				講義
14	第9章 消毒と滅菌 第12章 感染症の現状と対策				講義
15	第12章 感染症の現状と対策				
受講上の注意				評価方法 筆記試験	
テキスト 参考書 など	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学 医学書院				
備考					

科目名	薬理学	時期	1年後期	担当者	佐多 照正
		単位数	1	実務経験 内容	
		時間数	30		
科目目標	患者の病態と症状はもとより、患者が受ける薬物療法の目的や医師による薬剤の処方の意図、主要な副作用とその徴候を把握した上で与薬にあたる知識を身につける				
回数	学習内容				方法
1	臨床薬理学と看護師 薬物治療の基礎				講義
2	薬物治療の基礎				講義
3	薬物治療の基礎、対症療法薬の臨床薬理学				講義
4	対症療法薬の臨床薬理学				講義
5	対症療法薬の臨床薬理学				講義
6	対症療法薬の臨床薬理学				講義
7	主要疾患の臨床薬理学				講義
8	主要疾患の臨床薬理学				講義
9	主要疾患の臨床薬理学				講義
10	主要疾患の臨床薬理学				講義
11	特定の行為に関する臨床薬理学				講義
12	特定の行為に関する臨床薬理学				講義
13	特定の行為に関する臨床薬理学				講義
14	特定の行為に関する臨床薬理学、まとめ				講義
15	まとめ、終講試験				
受講上の注意	スマートフォン等使用可			評価方法 筆記試験	
テキスト 参考書 など	系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院				
備考					

科目名	健康教育	時期	3年前期	担当者	榎畑 祐子
		単位数	1	実務経験 内容	大学の講師として、健康教育学に携 わった経験をもとに講義を行う。
		時間数	30		
科目目標	健康の概念の変化や人々の健康を脅かす社会的な生活問題について理解を深める。また、健康行動理論の基礎を学ぶことで、看護師として健康教育を行う際に、健康教育の対象者の問題を明確化することができ、対象者の行動の変容と維持を促す健康教育を立案・実行できる。				
回数	学習内容				方法
1	オリエンテーション・健康とは				講義
2	健康とストレス				講義
3	健康と運動①				講義
4	健康と運動②				講義
5	健康と肥満・やせと食生活①				講義
6	健康と肥満・やせと食生活②				講義
7	健康と喫煙・飲酒・薬物①				講義
8	健康と喫煙・飲酒・薬物②				講義
9	健康と口腔				講義
10	健康と生活習慣病・ヘルスプロモーション				講義
11	健康行動理論（健康信念モデル、自己効力感）				講義
12	健康行動理論（変化のステージモデル、計画的行動理論）				講義
13	健康行動理論（ストレスとコーピング、ソーシャルサポート）				講義
14	健康行動理論（コントロール所在）、健康行動理論の応用法				講義
15	健康行動理論まとめ・レポート試験				講義試験
受講上の注意				評価方法 ミニッツペーパー 最終レポート	
テキスト 参考書 など	テキスト：使用しない、随時レジュメ配付				
備考					

科目名	保健医療論	時期	2年後期	担当者	高岡 茂
		単位数	1	実務経験 内容	
		時間数	15		
科目目標	現代の医療問題をふまえ、医の論理に基づいた医療の役割を「いのち」「健康」の視点から考え、医療のなかの看護の役割を考察する 1. わが国における保健医療のしくみと概要について理解する 2. 健康の概念をもとに人間生活と健康に関する問題を考える 3. わが国の医療制度の特徴と保健・医療の新しい潮流を知る				
回数	学習内容				方法
1	看護の専門性とは				講義
2	職業上の専門性とは 患者さんの不安心理				講義
3	職場のコミュニケーション アサーションとは				講義
4	医療と憲法 人権				講義
5	日本の医療の構造、過程、成果				講義
6	日本の社会の変化 人口の減少、高齢化、産業構造経済格差				講義
7	職業生活のストレス メンタルヘルス対策				講義
8	終講試験				
受講上の注意				評価方法 筆記試験	
テキスト 参考書 など	系統看護学講座 専門基礎分野 総合医療論 健康支援と社会保障制度① 医学書院				
備考					

科目名	社会福祉	時期	2年全期	担当者	毛利 満則
		単位数	2	実務経験 内容	大学講師として、社会福祉学に携わった経験をもとに講義を行う。
		時間数	45		
科目目標	社会福祉の概念と制度および動向についての基本的知識を習得し、保健・医療・福祉の連携の必要性を理解する。また、地域の生活者としての幅広い視点を持つ				
回数	学習内容				方法
1	生活と福祉				講義
2	社会福祉保障の概念・歴史・制度体系 ①社会保障とは何か②社会保障の歴史				講義
3	③社会保障の目的と機能				講義
4	我が国の社会保険制度 ①社会保険とは②保険医療制度				講義
5	③社会保障の目的と機能				講義
6	④その他の保険制度				講義
7	⑤介護保険制度				講義
8	⑤介護保険制度				講義
9	⑥労働保険制度				講義
10	社会福祉の諸制度と施策 ①生活保護法と施策				講義
11	②児童福祉と施策				講義
12	③障害児（者）の福祉施策				講義
13	③障害児（者）の福祉施策				講義
14	④高齢者の福祉施策				講義
15	中間試験及びまとめ				筆記試験 講義
16	社会福祉行政のしくみ				講義
17	社会福祉の歴史と援助技術 ①慈善事業から福祉国家まで②わが国の社会福祉の歴史				講義
18	③社会福祉援助技術とは④ソーシャルワークのルーツ				講義
19	⑤直接援助技術(個別援助技術)				講義
20	⑤直接援助技術(個別援助技術)				講義
21	⑥直接援助技術(集団援助技術)				講義
22	⑥直接援助技術(集団援助技術)				講義
23	終講試験及びまとめ				筆記試験 講義
受講上の注意				評価方法 15回目・23回目にテストを実施。テスト（80点）＋出席点（10点）＋コメントカード等	
テキスト 参考書など	新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度③ 社会福祉 メヂカルフレンド社 必要に応じて資料を配布				
備考	社会福祉の科目は、範囲が広く法律や制度も複雑で、苦手意識も強いようです。可能な限り、身近な生活問題を取り上げながら、わかりやすく楽しい講義にして、社会福祉に対する理解を深めて頂くよう努力します				

科目名	公衆衛生学	時期	1年後期	担当者	安藤 哲夫
		単位数	1	実務経験 内容	大学の教員として、公衆衛生学に携 わった経験をもとに講義を行う。
		時間数	15		
科目目標	人々の日常生活の中で社会や環境が人々の健康にどう関わりあっているのか、あるいは人間の健康保持・増進するための社会や環境はどうあるべきか、人間を生態系に考え、社会や環境と健康との関係を理解し、社会や環境の変化が健康に与える影響を知り、健康増進や疾病予防の考えや健康情報の利用など社会や環境と健康の関わりについて学習することができる				
回数	学習内容				方法
1	公衆衛生の概念 保健活動				講義
2	災害保険活動 ライフステージと健康				講義
3	ライフステージと健康 医の倫理				講義
4	医の倫理 終末医療				講義
5	国際保健 人口・衛生統計				講義
6	国民生活基礎調査 生活習慣病				講義
7	環境保健 感染症 産業保健				講義
8	終講試験 採点				
受講上の注意				評価方法 筆記試験	
テキスト 参考書 など	系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度〔2〕 公衆衛生 医学書院				
備考					

科目名	関係法規	時期	3年後期	担当者	中野 梨紗
		単位数	1	実務経験 内容	保健師として、保健行政などに携 わった経験をもとに講義を行う。
		時間数	15		
科目目標	医療・看護に必要な主な法律を学び、業務と法的責任について理解すると共に、生活者の健康を守る制度について学ぶ				
回数	学習内容				方法
1	法律の基礎知識 法の概念・法の分類・衛生法、厚生行政のしくみ、看護法				講義
2	看護と法律 医師法・医療法・関係資格法				講義
3	保健衛生法・共通保健法・分野別保健法				講義
4	薬務法・環境衛生法・環境整備				講義
5	社会保険法 医療と社会保険との関係・介護保険における保険給付・社会福祉に関する制度のうち医療に関係のある施策				講義
6	福祉法 福祉の各分野での看護師の役割・社会福祉の各施設の役割				講義
7	労働法と社会整備・環境法				講義
8	総括および終講試験				
受講上の注意				評価方法 筆記試験	
テキスト 参考書 など					
備考					

科目名	看護学概論	時 期	1年前期	担当者	四俣 芳子
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		時間数	30		
科目目標	看護とはなにか、看護師とはどのような職業かを学び、看護の基本となる姿勢、考え方や援助について考え学ぶ。				
回数	学習内容				方法
1	看護の世界へようこそ～看護を学ぶとは～				講義
2	看護の基本的な考え方 看護の役割と機能				講義
3	看護理論を学ぶにあたって～看護理論と実践～				講義
4	看護理論～ナイチンゲール～				講義
5	看護の探求①（ヘンダーソン・ウィーデンバック・オレム・ロイ・ペプロウ・オーランド・トラベルビー・ベナーetc）				PBL
6	看護の探求②				PBL
7	看護の探求③				PBL
8	看護の探求 発表				プレゼン、発表
9	看護の探求 発表				プレゼン、発表
10	国民健康と生活				講義
11	わが国の看護職の成立や養成制度				講義
12	看護倫理				講義
13	看護制度 看護管理 医療安全				講義
14	国際看護と災害看護について				講義
15	終講試験				
受講上の注意	予習をして授業に参加する 演習は積極的に参加する			評価 方法	授業態度10点 課題レポート10点 演習レポート10点 終講試験70点
テキスト 参考書 など	系統学講座(看護学概論)/医学書院 看護学生スタディガイド/照林社				
備考					

科目名	看護倫理	時 期	1 年後期	担当者	小林 麻美	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	15			
科目目標	1. 看護の現場にある倫理的課題に「気づく」ことができる 2. 倫理的課題を分析するために「参照すべき手がかり」を見つけられる 3. 倫理的課題の解決のために「なにをすべきか」を考えられる 4. 倫理的課題の解決のための「対話」を行うことができる					
回数	学習内容					
1	倫理学の基本的な考え方 倫理とはなのか 倫理理論・他者理解と対話のための理論					講義
2	倫理理論・他者理解と対話のための理論 生命倫理とはなにか 生命倫理の理論					講義
3	性と生殖の生命倫理 死の生命倫理					講義
4	先端医療と制度をめぐる生命倫理 移植医療 再生医療・遺伝子医療					講義
5	看護倫理とはなにか 看護の倫理原則 看護実践上の倫理的概念					講義
6	専門職の倫理 看護研究の倫理					講義
7	事例分析					演習
8	まとめと終講試験					講義・試験
受講上の注意				評価方法	筆記試験：100点	
テキスト 参考書 など	系統看護学講座 別巻 （看護倫理）/医学書院					
備考						

科目名	共通基本技術Ⅰ（安全・安楽）	時 期	1年前期	担当者	川原 祥乃・椎木 美絵	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	30			
科目目標	1. 基礎看護技術の意義を理解できる 2. 基礎看護技術に共通の安全・安楽の原理原則を理解できる 3. 科学的根拠に基づいて思考・実践する基礎的能力を養う					
回数	学習内容				方法	
1	看護技術の概念 看護技術の意義・目的/看護過程と看護理論/技術の質/看護技術と倫理				講義	
2	コミュニケーションの技術 コミュニケーションの意義と目的				講義	
3	コミュニケーションの技術 コミュニケーションの構成要素と成立過程				講義	
4	コミュニケーションの技術 関係構築のためのコミュニケーションの基本				講義、演習	
5	コミュニケーションの技術 効果的なコミュニケーションの実際				講義、演習	
6	コミュニケーションの技術 コミュニケーション障害への対応				講義、演習	
7	看護記録 看護記録の目的と意義/看護記録に関する法的規定/看護記録記載基準/看護記録及び診療記録の取り扱い・留意点				演習	
8	感染予防の技術 感染と感染予防策の基礎知識/感染予防における看護師の責務と役割				講義	
9	感染予防の技術 スクラブ法/ラビング法/個人防護用具使用目的及び使用時の実践				演習	
10	感染予防の技術 スクラブ法/ラビング法/個人防護用具使用目的及び使用時の実践				演習	
11	感染予防の技術 無菌操作/滅菌物の取り扱い/滅菌手袋装着の実践				演習	
12	感染予防の技術 針刺し事故の原因と対策/血液暴露事故防止				講義	
13	安全管理の技術 ヒューマンエラーの特性と防止策/看護事故の構造と防止の視点/看護事故防止のための対策/組織としての事故防止対策				演習	
14	教育指導技術 健康教育/自己効力感/退院指導（事例展開）				演習	
15	終講試験					
受講上の注意	事前学習（ワークシート）に取り組み、授業に参加すること 講義を通して学びを深め、看護に役立つ知識を身に付ける			評価 方法	終講試験85点 演習15点	
テキスト 参考書 など	テキスト：系統看護学講座（基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ）/医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術/医学書院 看護学生スタディガイド 照林社					
備考						

科目名	共通基本技術Ⅱ	時 期	1年前期	担当者	椎木 美絵	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	30			
科目目標	生活における環境について理解し、安全・安楽・自立を配慮した多様な生活環境を整えるための基礎的知識・技術を習得する。 生活における活動と休息の意義を理解し、基礎的知識・技術を習得する					
回数	学習内容				方法	
1	環境の諸要素とその調整				講義	
2	病室と病床の環境調整				講義	
3	病床を整える①（ベッドメイキング、リネン交換）				演習	
4	病床を整える②（ベッドメイキング、リネン交換）				演習	
5	病床を整える③（ベッドメイキング、リネン交換）				演習	
6	病床を整える④（ベッドメイキング、リネン交換）				演習	
7	基本的活動の基礎知識、体位				講義	
8	体位変換、歩行の援助				講義	
9	移乗・移送（援助の基礎知識・実際）				講義	
10	苦痛の緩和・安楽確保の技術（ポジショニング・巻法）				講義	
11	体位変換				演習	
12	杖歩行介助・車椅子移乗・移送①				演習	
13	杖歩行介助・車椅子移乗・移送②				演習	
14	安静と睡眠・休息の援助				講義	
15	終講試験					
受講上の注意	予習をして授業に参加する 講義を通して学びを深め、看護に役立つ知識を身に付ける 周囲の学生の勉学の妨げをしない			評価 方法	筆記試験 65 点 授業・演習態度 10点 提出物 10点 技術試験 15点	
テキスト 参考書 など	テキスト：系統看護学講座（基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ）/医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術/医学書院 看護学生スタディガイド/照林社					
備考	解剖生理学の復習をしておくこと 課題等の提出については、期限内に提出すること					

科目名	フィジカルアセスメント	時 期	1年全期	担当者	四俣 芳子	
		単位数	2	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	45			
科目目標	ヘルスアセスメントの目的を理解し、看護援助を実施するために必要なフィジカルアセスメントの基本技術を習得する 1. 看護におけるヘルスアセスメントの目的を理解する 2. フィジカルアセスメントに必要な解剖生理学の基礎を理解する 3. フィジカルアセスメントの基本、問診とイグザミネーション（視診、触診、打診、聴診）を理解する 4. 標準的な身体計測を実施できる 5. バイタルサイン測定が実施でき、アセスメントできる 6. 全身の系統別（筋・骨格系、呼吸器系、循環器系、消化器系、脳・神経系）フィジカルアセスメント の必要性を理解する					
回数	学習内容				方法	
1	看護におけるヘルスアセスメントの意義 1) ヘルスアセスメントとは何か 2) フィジカルアセスメントとは何か				講義	
2	フィジカルアセスメントの流れ 1) 問診（インタビュー） 2) 視診 3) 触診 4) 打診 5) 聴診				講義	
3	バイタルサインの意義、測定方法およびアセスメント 1) 体温 2) 脈拍 3) 血圧①				演習	
4	バイタルサインの意義、測定方法およびアセスメント 4) 血圧② 5) 呼吸				演習	
5	バイタルサインの意義、測定方法およびアセスメント 6) 意識状態				演習	
6	事例に基づいてバイタルサイン測定演習				演習	
7	事例に基づいてバイタルサイン測定演習				演習	
8	バイタルサイン測定①と記録（フローシート、リフレクションシート）				講義、演習	
9	バイタルサイン測定とリフレクション				技術試験	
10	バイタルサイン測定とリフレクション				技術試験	
11	系統別フィジカルアセスメントの実際 1) 筋・骨格系のアセスメント 2) 頭頸部のアセスメント				講義、演習	
12	系統別フィジカルアセスメントの実際 3) 呼吸器系のアセスメント① 呼吸器系の解剖と機能および観察とアセスメント				講義、演習	
13	系統別フィジカルアセスメントの実際 3) 呼吸器系のアセスメント②				講義、演習	
14	系統別フィジカルアセスメントの実際 3) 呼吸器系のアセスメント③ 呼吸器系のフィジカルイグザミネーション				講義、演習	
15	系統別フィジカルアセスメントの実際 4) 循環器系のアセスメント① 循環器系の解剖と機能および観察とアセスメント				講義、演習	
16	系統別フィジカルアセスメントの実際 4) 循環器系のアセスメント② 循環動態のアセスメント				講義、演習	
17	系統別フィジカルアセスメントの実際 4) 循環器系のアセスメント③ 心臓・循環器系のフィジカルイグザミネーション				講義、演習	
18	系統別フィジカルアセスメントの実際 5) 腹部のアセスメント① 腹部の解剖と機能および観察とアセスメント				講義、演習	
19	系統別フィジカルアセスメントの実際 5) 腹部のアセスメント② 腹部のフィジカルイグザミネーション				講義、演習	
20	系統別フィジカルアセスメントの実際 6) 乳房と腋窩のアセスメント 7) 直腸・肛門・生殖器の解剖と機能および観察とアセスメント				講義、演習	
21	系統別フィジカルアセスメントの実際 8) 脳・神経系のアセスメント① 1) 脳神経 2) 運動機能				講義、演習	
22	系統別フィジカルアセスメントの実際 8) 脳・神経系のアセスメント② 3) 反射 4) 感覚機能 5) 自律神経系				講義、演習	
23	終講試験				終講試験	
受講上の注意	事前課題を提出して講義・演習に臨むこと 実技演習では振り返りを行い、次の演習に活かすこと			評価 方法	筆記試験 技術試験 学習状況（課題提出、学習態度）	
テキスト 参考書 など	テキスト：系統看護学講座 看護学生スタディガイド 照林社 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 医学書院					
備考	解剖生理学の復習をしておくこと					

科目名	生活援助技術Ⅰ	時 期	1年後期	担当者	有村 かおり	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	30			
科目目標	人が生きることの根幹にかかわる食事・栄養・排泄の援助技術を習得する					
回数	学習内容				方法	
1	食事の意義と看護師の役割				講義	
2	食事援助の基礎知識 1) 栄養状態のアセスメント 2) 援助の実際				講義、GW	
3	食欲・摂食能力のアセスメント				講義、GW	
4	摂食・嚥下機能についてのアセスメントの視点、消化吸収メカニズム				講義、GW	
5	経管・経腸・経静脈栄養法 食事援助の実際(シミュレーション)				講義、演習	
6	食事援助の基本的技術				演習	
7	食事援助の基本的技術				演習	
8	排泄の意義とメカニズム				講義、演習	
9	排泄方法のアセスメント				講義	
10	自然な排泄を促す援助、失禁のある人への援助				講義、演習	
11	排泄援助の基本的技術				演習	
12	排泄援助の基本的技術				演習	
13	自然排便を促すために行う援助				講義、演習	
14	排便を促す援助(浣腸)				講義、演習	
15	総括及び終講試験				筆記試験	
受講上の注意	予習をして授業・演習に参加する 復習をして授業・演習に臨む			評価 方法	筆記試験80点 レポート、授業・演習態度20点	
テキスト 参考書 など	専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 第3版第3刷					
備考	解剖生理学の復習をしておくこと 事前学習を怠らず出席してしっかり授業・演習に参加すること					

科目名	生活援助技術Ⅱ (清潔・衣生活)	時 期	1年全期	担当者	松山 めばえ
		単位数	2	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		時間数	45		
科目目標	健康障害や治療制約のために、清潔行動・衣生活の自立困難な人への清潔・衣生活援助技術を学ぶ 1. 清潔と衣生活の意義と重要性について理解する 2. 皮膚・粘膜の生理学的知識に基づいた清潔のアセスメントのポイントを理解する 3. 清潔の方法による身体への負担の違いを理解する 4. 健康障害や日常生活動作（ＡＤＬ）に合わせた清潔の方法を選択することができる 5. 安全・安楽・自立を考え、清潔の援助をすることができる				
回数	学習内容				方法
1	清潔の意義 1) 清潔援助の目的と意義 2) 皮膚・粘膜の構造と機能 3) 洗浄剤の役割と選択				講義
2	清潔援助の対象とアセスメントのポイント 1) 援助の目的 2) 対象のアセスメント 3) 援助内容の判断と方法選択				講義
3	衣生活の意義と援助 1) 療養に適した衣服の条件 1) 衣生活のニーズのアセスメント				講義 動画視聴
4	寝衣交換の援助技術 1) 和式寝衣の交換 2) 点滴中の寝衣交換				講義 演習
5	入浴・シャワー浴 1) 入浴の意義 2) 普通浴 3) 機械浴				演習 動画視聴
6	部分浴の援助① 1) 手浴 2) 足浴				演習
7	全身清拭 1) 全身清拭の意義 2) 全身清拭の方法				講義 動画視聴
8	全身清拭の援助技術①				演習
9	全身清拭の援助技術②				演習
10	全身清拭の援助技術③				演習
11	陰部洗浄 1) 陰部洗浄の意義 2) 陰部洗浄の方法				講義
12	陰部洗浄の援助技術				演習
13	洗髪 1) 洗髪の意義 2) 洗髪の方法（洗髪車・ケリーバッド・洗髪プール・洗髪台）				講義 動画視聴
14	洗髪の援助技術①				演習
15	洗髪の援助技術②				演習
16	口腔ケア 1) 口腔ケアの意義 2) 口腔ケアの方法				講義 動画視聴
17	口腔ケアの援助技術				演習
18	全身清拭の技術確認と記録(リフレクション)①				演習
19	全身清拭の技術確認と記録(リフレクション)②				演習
20	『全身清拭・寝衣交換』実技試験				技術試験
21	『全身清拭・寝衣交換』実技試験				技術試験
22	『全身清拭・寝衣交換』実技試験				技術試験
23	終講試験(筆記試験)				終講試験
受講上の注意	事前課題を提出して講義・演習に臨むこと 実技演習では振り返りを行い、次の演習に活かすこと			評価 方法	筆記試験60点 技術試験20点 リフレクション10点 平素の学習状況10点(課題提出、学習態度)
テキスト 参考書 など	系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 医学書院 フローレンスナイチンゲール 看護覚え書 改訂7版 現代社 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院				
備考	演習前は技術動画を視聴して臨むこと				

科目名	診療の補助技術	時 期	2年前期	担当者	榮 琴恵・松山 めばえ	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	30			
科目目標	治療、検査、処置などの内部環境を調整する技術の意義を理解し、健康の充足・維持増進のために実施される診療の補助技術に必要な基本的技術とその援助技術の方法を習得する					
回数	学習内容				方法	
1	1. 創傷管理技術 1) 創傷管理の基礎知識 2) 創傷処置 3) 包帯法 4) 褥瘡予防と援助の実際				講義	
2	創傷処置、包帯法				演習	
3	1. 症状・生体機能管理技術 1) 生体情報のモニタリング 2. 診察・検査・処置における技術 1) 診察の介助 2) 検査・処置の介助				講義	
4	1. 症状・生体機能管理技術 1) 検体検査①血液検査②尿検査③便検査④喀痰検査				講義	
5	人体モデルを用いた静脈血採血				演習	
6	人体モデルを用いた静脈血採血				演習	
7	輸血管理 1) 輸血の種類・取り扱い 2) 輸血時の留意点と観察				講義	
8	1. 与薬の基礎知識 1) 薬物の基本的性質 2) 看護師の役割 2. 予約の種類 1) 経口与薬 2) 吸入 3) 点眼・点鼻・点耳 4) 経皮与薬 5) 直腸内与薬				講義	
9	誤薬防止と薬物被曝の防止 1) 誤薬の起こりやすい状況と対策 2) 抗がん剤暴露の防止				講義	
10	1. 注射の基礎知識 1) 注射法の種類と特徴 2) 注射器と注射針 2. 注射の実施法 1) 静脈内注射 2) 点綴静脈内注射				講義	
11	輸液管理の実際 1) ブライミング 2) 三方活栓を用いた輸液の方法				演習	
12	1. 注射の実施法 1) 皮内注射 2) 皮下注射 3) 筋肉内注射 2. 注射の準備				講義	
13	人体モデルを用いた筋肉内注射				演習	
14	人体モデルを用いた筋肉内注射				演習	
15	総括及び終講試験				筆記試験	
受講上の注意	予習・復習をして授業・演習に臨む			評価方法	筆記試験 レポート 提出物 授業・演習態度	
テキスト 参考書 など	専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 医学書院 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術第3版第3刷 看護学生スタディガイド 照林社					
備考	解剖生理学の復習をしておくこと 事前学習を怠らず出席してしっかり授業・演習に参加すること					

科目名	臨床看護総論	時 期	1年後期	担当者	松山 めばえ
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		時間数	30		
科目目標	基礎的知識や技術が実践の中でどのように統合されているのか、看護の対象者の状況（ライフサイクル、場、健康状態、症状、治療）に応じて理解する				
回数	学習内容				方法
1	健康上のニーズをもつ対象者と家族への看護				講義
2	健康状態の経過に基づく看護				講義
3	健康のレベルと看護（1）健康の維持・増進を目指す時期				講義、演習
4	健康のレベルと看護（2）急性期、回復期				講義、演習
5	健康のレベルと看護（3）慢性期、終末期				演習、発表
6	主要な症状を示す対象者への看護（1）呼吸、循環				講義、演習
7	主要な症状を示す対象者への看護（2）栄養、排泄				講義、演習
8	主要な症状を示す対象者への看護（3）活動・休息、認知				講義、演習
9	主要な症状を示す対象者への看護（4）コーピング、安全生体防御、安楽				講義、演習
10	治療・処置を受ける対象者への看護（1）輸液療法、化学療法、放射線療法				講義
11	治療・処置を受ける対象者への看護（2）手術療法、集中治療、創傷処置・ケア				講義
12	医療機器とその実際				講義、演習
13	医療機器の実際 呼吸管理、救命救急処置、輸液管理				演習、発表
14	事例による看護実践の展開				講義、演習
15	総括及び終講試験				筆記試験
受講上の注意	各機能（呼吸、循環等）のメカニズムを予習して講義に臨むこと			評価方法	筆記試験80点 レポート 授業、演習、発表態度20点
テキスト 参考書 など	専門分野 臨床看護総論 基礎看護学4 医学書院 専門分野 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学3 医学書院 治療薬マニュアル2023 医学書院,看護学生スタディガイド 照林社				
備考					

科目名	看護過程	時 期	2年前期	担当者	椎木 美絵	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	30			
科目目標	看護を必要とする対象の看護問題や原因を明らかにし、その問題を解決する実践的方法論を学び、看護の問題解決思考のプロセスを理解する					
回数	学習内容				方法	
1	看護過程とは、看護過程を展開する際に基盤となる考え方				講義	
2	看護過程の各段階				講義	
3	ヘンダーソンの看護理論から看護過程の展開への概要				講義	
4	人間の反応の理解				講義	
5	ヘンダーソンの看護理論に基づくアセスメント：事例展開（常在条件）				個人ワーク	
6	ヘンダーソンの看護理論に基づくアセスメント：事例展開（病理的状态）				個人ワーク	
7	ヘンダーソンの看護理論に基づく看護問題の明確化：事例展開				個人ワーク	
8	ヘンダーソンの看護理論に基づく看護問題の明確化：事例展開				個人ワーク	
9	ヘンダーソンの看護理論に基づく看護問題の明確化：事例展開				個人ワーク	
10	ヘンダーソンの看護理論に基づく全体像の作成：事例展開				個人ワーク	
11	ヘンダーソンの看護理論に基づく全体像の作成：事例展開				個人ワーク	
12	ヘンダーソンの看護理論に基づく全体像の作成：事例展開				個人ワーク	
13	ヘンダーソンの看護理論に基づく看護計画の作成：事例展開				個人ワーク	
14	ヘンダーソンの看護理論に基づく看護計画の作成：事例展開				個人ワーク	
15	終講試験					
受講上の注意	予習や演習課題を学習して授業や演習に参加する 演習後に、作成したレポートを提出する			評価方法	各講義でのレポート提出内容や講義態度、終講試験の結果から総合的に評価する。	
テキスト 参考書 など	『基礎看護学②基礎看護技術Ⅰ』医学書院 『看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実際』ヌーヴェルヒロカワ 『ヘンダーソンの基本的看護に関する看護問題リスト』ヌーヴェルヒロカワ					
備考	講義や個人ワークはテキストや参考書を必ず携帯し、参加すること					

科目名	臨床判断	時 期	2年前期	担当者	有村 かおり	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	30			
科目目標	『看護師のように考え、行動できるようになるために』気づく力を培い、科学的根拠に基づきとるべき行動を導く思考過程を身に付ける。					
回数	学習内容				方法	
1	本授業の目的・到達度・授業ルールの説明 生活体験から気づきと気づきを通して解釈・反応				講義	
2	臨床判断の意義(臨床判断に必要な思考過程について)				講義	
3	臨床判断モデルについて				講義、演習	
4	気づき(間違い探し)				講義、GW	
5	気づき(思考発話)				講義、GW	
6	心不全の看護(臨床推論:解釈)				講義、GW	
7	心不全の看護(臨床推論:解釈)				講義、演習	
8	シミュレーション(反応⇒省察)				講義、GW	
9	急性腹症の患者の看護(臨床推論:解釈)				講義、GW	
10	シミュレーション(反応⇒省察)				講義、演習	
11	脳出血患者の看護(臨床推論:解釈)				講義、GW	
12	シミュレーション(反応⇒省察)				講義、演習	
13	演習テスト					
14	演習テスト					
15	演習テスト					
受講上の注意	事前学習（ワークシート）に取り組み、授業に参加すること			評価方法	確認テスト10点、事前課題15点、シミュレーション評価レポート30点、演習テスト25点、小テスト15点、出席5点	
テキスト参考書など	講義を通して学びを深め、看護に役立つ知識を身に付ける 課題に応じた全領域のテキスト					
備考	解剖生理学、病態生理学の復習をしておくこと					

科目名	地域と暮らし	時 期	1年前期	担当者	川原 祥乃	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	15			
科目目標	1. ライフステージ各期にある人の時間的流れや場の広がり暮らしが健康に与える影響がいえる 2. 暮らしの中での支えあいを知り生きるための人々のつながりがいえる 3. 地域の生活環境の違いを知り、生活環境が健康に与える影響が言える					
回数	学習内容				方法	
1	暮らしを知る 暮らすとは/子どもを生み育てる/学ぶ/働く/病を治す/老いと共に生きる/最期を迎える				講義、GW	
2	ライフステージの時間的流れや場と暮らしのつながりを知る (身近な人々をモデルとして情報をもとに意見交換する：小児期・学童期) (身近な人々をモデルとして情報をもとに意見交換する：成人期・老年期)				講義、GW	
3	支えあって生きるとはどういうことか知る 家族/仲間/近隣の人々/学校や職場/支えあい/自助/公助/共助/互助/行政・教育・医療・福祉等多職種連携・協働				講義、GW	
4	地域の生活環境が健康に与える影響 文化的環境（生活の場：労働の場/学習の場/地域組織/施設他） 社会的環境（家族、近隣とのつながり、習慣・風習等文化） 自然環境				講義、GW	
5	テーマ：地域とその人々の暮らしを知る 赤塚学園周辺地区(荒田・上荒田・下荒田地区)の情報を収集する				フィールドワーク	
6	テーマ：地域とその人々の暮らしを知る 赤塚学園周辺地区(荒田・上荒田・下荒田地区)の情報を収集する				フィールドワーク	
7	テーマ：地域とその人々の暮らしを知る 赤塚学園周辺地区(荒田・上荒田・下荒田地区)の収集した情報を、 MAPにまとめる				GW	
8	テーマ：地域とその人々の暮らしを知る まとめたMAPの発表				発表	
受講上の注意	予習（ワークシート）をして授業に参加する 毎回講義終了時テーマに関して学習内容や意見交換した内容を提出 グループワーク（4人～5人/G）			評価方法	各講義・演習・GW内容及び取り組む姿勢をもとに合計100点とする。 終講試験は実施しない。	
テキスト参考書など	系統看護学講座専門分野地域・在宅看護論Ⅰ/Ⅱ 医学書院 成人看護学/医学書院 家族看護論/医学書院 社会保障・社会福祉/医学書院 がん看護学/医学書院					
備考	事前学習（ワークシート）を怠らず出席してしっかり授業に参加すること					

科目名	地域・在宅看護概論	時 期	1年前期	担当者	川原 祥乃	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	15			
科目目標	地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を理解する 1．暮らしの基盤としての地域を理解する 2．地域・在宅看護の対象を学ぶ 3．地域・在宅看護にかかわる制度とその活用について理解する					
回数	学習内容				方法	
1	暮らしのなかの看護はどのようにして変遷してきたのか				講義	
2	暮らしの基盤としての地域の理解				講義、演習	
3	暮らしの基盤としての地域の理解～地域・在宅看護実践の場～				講義、演習	
4	地域で暮らす人々の特徴				講義、演習	
5	地域で暮らす人々の健康問題と課題				講義、演習	
6	地域・在宅看護の基本となるもの				講義、演習	
7	地域・在宅にかかわる制度とその活用 地域・在宅看護における権利保障				講義	
8	終講試験					
受講上の注意	事前学習（ワークシート）に取り組み、授業に参加すること 講義を通して学びを深め、看護に役立つ知識を身に付ける			評価 方法	終講試験 80点 提出物・グループワーク 20点	
テキスト 参考書 など	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論 I 医学書院 家族看護を基盤とした 地域・在宅看護論 日本看護協会出版社					
備考						

科目名	暮らしを支える看護Ⅰ	時 期	2年前期	担当者	川原 祥乃	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	15			
科目目標	地域・在宅看護論の対象と看護の基盤となる概念を理解する 1．地域における暮らしを支える看護 2．地域・在宅看護実践の場と連携の場と連携 3．多職種連携・チームでの協働					
回数	学習内容				方法	
1	地域における看護の対象の特徴				講義	
2	地域で暮らす人々の健康問題・課題に影響する要因と支援				講義	
3	住まいと健康				講義	
4	暮らしの危機に備える				講義	
5	地域・在宅看護師の役割				講義	
6	多職種連携・協働				講義、演習	
7	地域・在宅看護にかかわる制度				講義	
8	終講試験					
受講上の注意	事前学習（ワークシート）に取り組み、授業に参加すること 講義を通して学びを深め、看護に役立つ知識を身に付ける			評価 方法	終講試験 100点	
テキスト 参考書 など	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ 医学書院					
備考						

科目名	暮らしを支える看護Ⅱ	時 期	2年後期	担当者	川原 祥乃
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		時間数	30		
科目目標	地域で生活する人々と、その家族の看護について理解する 1. 地域・在宅看護の介入時期別の看護の実際 2. 地域・在宅看護のマネジメント				
回数	学習内容				方法
1	地域に暮らす人々と家族を対象とした看護				講義
2	継続看護マネジメント				講義
3	意思決定支援				講義、演習
4	地域共生社会				講義、演習
5	生活の場での看護				講義 DVD視聴
6	暮らしの場は不適切な療養環境（事例）				講義、演習
7	療養者を中心にした環境調整（事例）				講義、演習
8	夜間の緊急電話対応（事例）				講義、演習
9	認知機能が低下した人の在宅療養生活支援				講義
10	老老介護の世帯で介護者が認知症に（事例）				講義、演習
11	認知症のある療養者からの暴言・暴力（事例）				講義、演習
12	介護者による虐待が疑われる（事例）				講義、演習
13	地域・在宅看護のマネジメント				講義
14	地域・在宅看護の活動例				講義、演習
15	終講試験				
受講上の注意	事前学習（ワークシート）に取り組み、授業に参加すること 講義を通して学びを深め、看護に役立つ知識を身に付ける			評価 方法	終講試験 80点 事前学習 20点
テキスト 参考書 など	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ 医学書院 事例から学ぶ地域・在宅看護論－訪問時のお作法から実習のポイントまで 医学書院				
備考					

科目名	暮らしの場で行われる治療と看護	時 期	2年後期	担当者	川原 祥乃	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	15			
科目目標	1. 在宅療養に必要な状況判断の必要性について基礎的知識を習得できる 2. 療養者及び家族とともに医療機器管理やケアの実際を述べることができる					
回数	学習内容				方法	
1	訪問看護での臨床判断力				講義、演習	
2	医療処置が必要な対象の看護 褥瘡予防／スキンケア				講義	
3	医療機器を装着した対象の看護 在宅中心静脈栄養法/膀胱留置カテーテル				講義	
4	医療機器を装着した対象の看護 腹膜透析 / ストーマ管理				講義	
5	医療機器を装着した対象の看護 在宅人工呼吸療法/非侵襲的陽圧換気療法/在宅酸素療法				講義	
6	医療機器を装着した対象の看護 在宅人工呼吸療法/非侵襲的陽圧換気療法/在宅酸素療法				講義	
7	地域・在宅看護における予約				講義	
8	まとめ 終講試験					
受講上の注意	在宅看護論及びこれまで学んだ看護技術を復習すること グループワークに積極的に参加すること 復習をして臨む			評価 方法	終講試験100点	
テキスト 参考書 など	系統看護学講座 専門分野 地域・在宅看護論Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス ナーシンググラフィカ 在宅看護論①②地域療養を支えるケア メディカ出版					
備考	事前学習（ワークシート）を怠らず出席してしっかり授業に参加すること					

科目名	健康回復支援論	時 期	2年前期	担当者	榮 琴恵	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	30			
科目目標	健康障害を持つ対象者を理解し、疾病理解の看護学視点を持ち、状態に応じて必要な看護を理解する					
回数	学習内容				方法	
1	1) 患者心理の特徴が理解できる 2) 病期の特徴と看護の役割が理解できる				講義	
2	疾病理解と看護学的視点を持つことができる～呼吸器～				TBL	
3	疾病理解と看護学的視点を持つことができる～循環器～				TBL	
4	疾病理解と看護学的視点を持つことができる～消化器～				TBL	
5	疾病理解と看護学的視点を持つことができる～腎・泌尿器～				TBL	
6	疾病理解と看護学的視点を持つことができる～脳神経～				TBL	
7	看護を考える1(心筋梗塞・大腿骨頸部骨折・肝臓がん・ネフローゼ症候群・パーキンソン病・妊娠糖尿病)				PBL	
8	看護を考える2				PBL	
9	看護を考える3				PBL	
10	看護を考える4				PBL	
11	看護を考える5				PBL	
12	看護を考える6(グループ発表)				PBL	
13	模擬患者演習1(患者理解の学習会)				GW	
14	模擬患者演習2(3年生OSCEの患者体験)				演習	
15	模擬患者体験のリフレクション				GW、発表	
受講上の注意	事前学習：事前に指定したところを学習して授業に参加する TBLは事前学習＋個人テスト＋チームテスト PBLは前日までに渡された資料(各自A4用紙1枚にまとめたレポートのグループ全員分のコピー)を読み込んで参加する			評価方法	TBL 10点×5 PBL 6点×5 発表10点 リフレクションシート10点 合計100点	
テキスト参考書など	『解剖生理学』『病理学』『呼吸器』『循環器』『消化器』『腎・泌尿器』『脳神経』医学書院 看護学生スタディガイド					
備考	解剖生理学、病理学総論の復習をしておくこと 単位内訳：在宅0.2単位 成人0.3単位 老年0.1単位 小児0.1単位 母性0.2単位 精神0.1単位					

科目名	手術療法と看護	時 期	2年前期	担当者	外部講師／椎木 美絵	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	30			
科目目標	周手術期にある小児から高齢者までの対象と家族を理解し、周手術期の経時的変化を捉えながら必要な看護を理解する 1. 周手術期の看護の概要と看護師の役割について理解することができる 2. 術前・術中・術後や術後合併症の看護について理解することができる 3. 手術療法を受ける対象や家族の身体的・心理的・社会的変化を理解することができる					
回数	学習内容				方法	
1	周手術期の看護の概要と看護師の役割				講義	
2	麻酔とは 麻酔の種類と術前・術中・術後の管理				講義	
3	全身麻酔と局所麻酔の合併症				講義	
4	手術侵襲と生体反応				講義	
5	手術後に起こりやすい合併症				講義	
6	術前の患者の看護				講義	
7	術中の患者の看護				講義	
8	術後の患者の看護①				講義	
9	術後の患者の看護②				講義	
10	術後の患者の看護③				講義	
11	術式別・周術期看護（肺切除術・胃切除術・腹腔鏡下胆嚢摘出術・甲状腺切除術）				講義	
12	事例に応じた術後合併症予防への援助①				GW	
13	事例に応じた術後合併症予防への援助②				GW	
14	事例に応じた術後合併症予防への援助③				GW	
15	終講試験					
受講上の注意	予習・復習をして授業に参加する 講義を通して学びを深め、看護に役立つ知識を身につける 2/3以上の出席で終講試験受験資格が得られる			評価 方法	終講試験85点 GW15点	
テキスト 参考書 など	よくわかる周術期看護 学研					
備考	事前学習を怠らず出席してしっかり授業に参加すること 【 単位内訳：成人0.5単位 老年0.2単位 母性・小児・精神0.1単位 】					

科目名	薬物療法と看護	時 期	2年前期	担当者	島 繁久
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		時間数	30		
科目目標	薬物療法における看護師の役割を理解するとともに、処方された薬剤の管理および対象に現れる作用・副作用を理解し、適正な薬物療法を行うための基礎的能力を養う				
回数	学習内容				方法
1	薬物療法の基礎的知識について理解を深め、看護の視点で考えることができる				講義
2	主要疾患のある対象の薬物療法の特徴が理解できる				講義
3	主要疾患のある対象の薬物療法の特徴が理解できる				講義
4	主要疾患のある対象の薬物療法の特徴が理解できる				講義
5	主要疾患のある対象の薬物療法の特徴が理解できる				講義
6	精神症状に用いる薬物について理解できる。また、精神障害が薬の管理能力に及ぼす影響について理解できる				講義
7	精神障害をもつ対象の服薬管理能力の問題と問題解決に向けた援助について理解できる				講義
8	妊娠褥婦と胎児および新生児の薬と「催奇形性」の関係について理解できる				講義
9	子どもと母親への対応と小児領域で使用する薬について理解できる				講義
10	在宅における高齢者および家族への服薬指導について理解できる				講義
11	在宅で生活する認知症高齢者への支援について理解できる				講義
12	事例に応じた薬物療法の基礎的知識に基づいた薬物療法看護のロールプレイができる				GW
13	事例に応じた薬物療法の基礎的知識に基づいた薬物療法看護のロールプレイができる				GW
14	事例に応じた薬物療法の基礎的知識に基づいた薬物療法看護のロールプレイができる				GW
15	ロールプレイの発表会				発表
受講上の注意	在宅・成人・老年・小児・母性・精神の領域を超えて薬物療法を受ける対象の理解と薬物療法における看護の役割と援助方法について理解する講義である。 事前学習（ワークシート）を怠らず出席してしっかり授業に参加すること。 グループワークではグループダイナミクスを活用し、積極的に参加すること。			評価 方法	学生・・・自己評価点：5点 他者評価点：5点 内容点：10点 合計20点 教員・・・出席状況・受講態度：10点 ポストテスト・発表原稿・発表での評価 70点
テキスト 参考書 など	臨床薬理学 医学書院 看護学生 スタディガイド 照林社				
備考	【単位内訳：成人・小児・精神・在宅0.2単位 老年・母性0.1単位】				

科目名	終末期と看護	時 期	2年前期	担当者	外部講師／日置 敦子	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	30			
科目目標	各発達段階によって訪れる死の意味を理解し、終末期にある対象および家族に対する看護を実践する基礎的能力を養う					
回数	学習内容				方法	
1	終末期にある小児の特徴				講義 DVD視聴	
2	終末期にある子どもと家族の看護				講義	
3	終末期医療の特徴				講義	
4	人生の最期のときを支える看護				講義	
5	緩和ケアにおける倫理的課題				講義	
6	全人的ケアの実践				講義	
7	緩和ケアの広がり				講義	
8	終末期にある老年の特徴				講義	
9	エンドオブライフケア				講義	
10	臨死期のケア				講義、演習	
11	家族のケア				講義	
12	在宅における看取りの看護				講義	
13	自宅で死を迎えることの意味				講義	
14	グリーフケア				講義	
15	終講試験					
受講上の注意	予習・復習をして講義・演習に臨むこと 講義を通して学びを深め、看護に役立つ知識を身に付ける			評価 方法	レポート、講義・演習態度、終講試験の結果から総合的に評価する。	
テキスト 参考書 など	臨床看護総論 小児臨床看護総論 成人看護学総論 老年看護学 地域・在宅看護の実践 / 医学書院 緩和ケア 基礎看護技術Ⅱ / 医学書院					
備考	単位内訳：在宅0.2単位 成人0.2単位 老年0.2単位 小児0.1単位 母性0.1単位 精神0.2単位					

科目名	多職種連携	時 期	3年前期	担当者	四俣 芳子	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	30			
科目目標	保健・医療および福祉における看護の役割を理解し、人々の健康生活を支えるために多職種と連携・協働する実践力の基礎を習得する 1. さまざまな組織・機関に所属する職種との連携・協働に必要な基礎知識および方法論を理解する 2. 人々の健康生活にかかわる課題の解決を支える他職種の役割を理解し、連携・協働のあり方を考える					
回数	学習内容				方法	
1	なぜ多職種連携が必要なのか、それぞれの医療者の役割と成長過程				講義	
2	医療職とは～役割と育成過程（1）職種を知ろう				PBL	
3	医療職とは～役割と育成過程（2）職種ごとに調べる				PBL	
4	医療職とは～役割と育成過程（3）職種ごとに調べる				PBL	
5	医療職とは～役割と育成過程（4）発表				発表	
6	それぞれの部署や状況における多職種連携(事例1)				講義	
7	それぞれの部署や状況における多職種連携(事例2)				講義	
8	それぞれの部署や状況における多職種連携(事例3)				講義	
9	在宅療養における連携、災害慢性期(生活期)における連携				講義	
10	多職種との連携～メディカルメイクアップより学ぶ(1)				講義、演習	
11	多職種との連携～メディカルヘアメイクアップより学ぶ(2)				演習	
12	多職種との連携～心地よい洗髪の実際(1)				演習	
13	多職種との連携～心地よい洗髪の実際(2)				演習	
14	話し方と聴き方のポイント 場に応じた会話の基本				講義	
15	話し方と聴き方のポイント アクティブリスニング				講義 レポート	
受講上の注意	講義を通して学びを深め、看護に役立つ知識を身に付ける			評価 方法	レポート80点 出席状況20点	
テキスト 参考書 など	テキストなし					
備考	成人0.3 老年0.2 母性0.1 小児0.1 精神0.2 地域・在宅0.1					

科目名	看護過程展開論Ⅰ	時 期	2年後期	担当者	椎木 美絵／榮 琴恵／川原 祥乃	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	30			
科目目標	看護過程の基本理論を活用し、対象特性を考慮しながら、健康状態に応じた個性のある看護を提供する過程について事例展開を通して基本的な問題解決能力を養う					
回数	学習内容				方法	
1	成人期にある周手術期患者の看護過程展開方法が理解できる				個人ワーク	
2	情報収集とアセスメントができる				個人ワーク	
3	看護計画が立案できる				個人ワーク	
4	計画に沿って実施できる				個人ワーク	
5	リフレクションし、計画の追加修正ができる				個人ワーク	
6	老年期にある認知症患者の看護過程展開方法が理解できる				個人ワーク	
7	情報収集とアセスメントができる				個人ワーク	
8	看護計画が立案できる				個人ワーク	
9	計画に沿って実施できる				個人ワーク	
10	リフレクションし、計画の追加修正ができる				個人ワーク	
11	在宅療養者への看護過程展開方法が理解できる				個人ワーク	
12	情報収集とアセスメントができる				個人ワーク	
13	関連図を作成し、看護問題を抽出できる				個人ワーク	
14	看護計画を立案できる				個人ワーク	
15	リフレクションし、計画の追加修正ができる				個人ワーク	
受講上の注意	既習学習の統合科目です。テキスト、参考書を準備して講義に臨んでください。			評価方法	成人領域40点 老年領域30点 在宅領域30点 合計100点	
テキスト 参考書 など						
備考	単位内訳：成人0.5単位 老年0.2単位 在宅0.3単位					

科目名	看護過程展開論Ⅱ	時 期	2年後期	担当者	四俣 芳子／小林 麻美／島 繁久
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		時間数	30		
科目目標	看護過程の基本理論を活用し、対象特性を考慮しながら、健康状態に応じた個性のある看護を提供する過程について事例展開を通して基本的な問題解決能力を養う				
回数	学習内容				方法
1	小児とその家族の看護過程展開方法が理解席る				演習
2	情報収集とアセスメントができる				演習
3	看護計画が立案できる				演習
4	計画に沿って実施できる				演習
5	リフレクションし、計画の追加修正ができる				演習
6	正常な妊娠期・産褥期・新生児期の母児の看護過程展開方法が理解できる				演習
7	情報収集とアセスメントができる				演習
8	看護計画が立案できる				演習
9	計画に沿って実施できる				演習
10	リフレクションし、計画の追加修正ができる				演習
11	精神疾患を発症した患者の看護過程展開方法が理解できる				演習
12	情報収集とアセスメントができる				演習
13	看護計画が立案できる				演習
14	計画に沿って実施できる				演習
15	リフレクションし、計画の追加修正ができる				演習
受講上の注意	既習学習の統合科目です。テキスト、参考書を準備して講義に臨んでください。			評価 方法	小児領域40点 母性領域30点 精神領域30点 合計100点
テキスト 参考書 など					
備考	単位内訳：小児0.4単位 母性0.4単位 精神0.2単位				

科目名	成人看護学概論	時 期	1年後期	担当者	椎木 美絵	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	15			
科目目標	成人の成長発達や養護について学び、看護の役割を理解する 1．成人の成長発達の特徴について役割や健康問題について学ぶ 2．成人看護に有用な七つの概念について学ぶ 3．成人の学習者としての特徴を踏まえた健康教育や患者教育について学ぶ					
回数	学習内容				方法	
1	成人と生活、生活と健康				講義	
2	健康を脅かす要因と看護				講義	
3	健康生活の急激な破綻とその回復を支援する看護				講義	
4	慢性病とともに生きる人を支える看護				講義	
5	障害がある人の生活とリハビリテーション				演習	
6	行動変容を促進する看護アプローチ①				GW	
7	行動変容を促進する看護アプローチ②				GW	
8	終講試験					
受講上の注意	予習をして授業に参加する 講義を通して学びを深め、看護に役立つ知識を身に付ける 周囲の学生の勉学の妨げをしない			評価 方法	終講試験 80点 GW 20点	
テキスト 参考書 など	系統看護学講座 専門分野 成人看護学[1]成人看護学概論 第16版第3刷 医学書院					
備考	評価方法のGW（グループワーク）では、メンバーとの協力、積極的な態度等評価する					

科目名	成人看護援助論I	時 期	2年前期	担当者	外部講師	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	30			
科目目標	1. 呼吸器・循環器障害のある対象者の生命・生活への支障・影響を理解し、病状の経過と、患者とその家族に必要な看護を理解する 2. 緊急時対応の原則を理解し、救命処置(BLS)の知識・技術を習得する					
回数	学習内容				方法	
1	1) 循環器疾患を持つ患者の経過・動向と看護 2) 循環器症状に対する看護 3) 循環器検査を受ける患者の看護				講義	
2	循環器治療をける患者の看護 1) 薬物療法 2) カテーテル治療 3) 手術				講義	
3	循環器疾患をもつ患者の看護 1) 虚血性心疾患 2) 心不全				講義	
4	循環器疾患をもつ患者の看護 1) 血圧異常 2) 不整脈				講義	
5	循環器疾患をもつ患者の看護 1) 心臓リハビリテーション 2) 患者教育				講義	
6	1) 呼吸器疾患もつ患者の経過・動向と看護 2) 呼吸器症状に対する看護 3) 呼吸器検査を受ける患者の看護				講義	
7	呼吸器治療を受ける患者の看護 1) 吸入療法 2) 酸素療法 3) 人工呼吸器				講義 演習	
8	呼吸器治療を受ける患者の看護 1) 気管切開 2) 胸腔ドレナージ 3) 手術				講義 演習	
9	呼吸器疾患をもつ患者の看護 1) 肺炎 2) 結核 3) 気管支喘息 4) 睡眠時無呼吸症候群				講義	
10	呼吸器疾患をもつ患者の看護 1) COPD 2) 肺血栓塞栓症 3) 肺がん 5) 気胸				講義 演習	
11	集中治療を必要とする患者の看護①				講義	
12	集中治療を必要とする患者の看護②				講義	
13	救急看護を必要とする患者の看護①				講義 演習	
14	救急看護を必要とする患者の看護②				講義 演習	
15	終講試験				筆記試験	
受講上の注意	予習をして授業に参加する 講義を通して学びを深め、看護に役立つ知識を身に付ける 周囲の学生の勉学の妨げをしない			評価 方法	循環器 40点 呼吸器 40点 集中治療 10点 救急看護 10点	
テキスト 参考書 など	系統看護学講座 専門分野II 呼吸器 成人看護学② 医学書院 系統看護学講座 専門分野II 循環器 成人看護学③ 医学書院 看護学生スタディガイド 照林社					
備考	解剖生理学、病理学総論、病態生理学、疾病と治療の復習をしておくこと 課題等の提出について、期限内に提出しない場合その講義に参加していても欠課とする					

科目名	成人看護援助論II	時 期	2年前期	担当者	椎木 美絵／日直 敦子／榮 孝思／外部講師	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	30			
科目目標	急性期・回復期・クリティカルな状況にある成人期の対象と家族を理解し、生命の危機的状況から回復するための看護を学ぶ					
回数	学習内容				方法	
1	1)脳・神経疾患をもつ患者の経過・動向と看護 2)脳・神経症状に対する看護 3)脳・神経検査を受ける患者の看護				講義	
2	脳・神経治療を受ける患者の看護 1) 薬物療法 2) リハビリテーション 3) 開頭手術				講義	
3	脳・神経疾患をもつ患者の看護 1)クモ膜下出血 2)脳梗塞 3)脳出血 4)頭部外傷				講義	
4	脳・神経疾患をもつ患者の看護 1)筋ジストロフィー 2)多発性硬化症 3)筋萎縮性側索硬化症				講義	
5	脳・神経疾患をもつ患者の看護 1)パーキンソン病 2)髄膜炎				講義	
6	1) 運動器疾患をもつ患者の経過・動向と看護 2)運動器症状に対する看護 3)運動器検査を受ける患者の看護				講義	
7	運動器疾患治療を受ける患者の看護とその症状 1) 画像検査 2)保存療法3)手術4)疼痛、神経・循環障害				講義	
8	運動器疾患治療を受ける患者の看護 1)大腿骨頸部骨折・転子部骨折 2)関節リウマチ 3)椎間板ヘルニア 4)脊髄損傷				講義	
9	1)消化器疾患をもつ患者の経過・動向と看護 2)消化器症状に対する看護 3)消化器検査を受ける患者の看護				講義	
10	消化器治療を受ける患者の看護 1)薬物療法 2)栄養・食事療法 3)放射線療法				講義	
11	消化器疾患をもつ患者の看護 1)食道がん 2)胃がん 3)虫垂炎 4)腸閉塞				講義	
12	消化器疾患をもつ患者の看護 1)潰瘍性大腸炎 2)クローン病 3)腹膜炎 5)大腸がん				講義	
13	消化器疾患をもつ患者の看護 1)肝炎 2)肝硬変 3)食道動脈瘤 4)肝がん5)胆のう炎6)膵炎				講義	
14	消化器疾患をもつ患者の看護 1)ストーマケア				講義 演習	
15	終講試験				筆記試験	
受講上の注意	予習をして授業に参加する 講義を通して学びを深め、看護に役立つ知識を身に付ける 周囲の学生の勉学の妨げをしない			評価 方法	脳神経 40点 消化器 40点 運動器 20点	
テキスト 参考書 など	系統看護学講座 専門分野II 脳・神経 成人看護学⑦ 医学書院 系統看護学講座 専門分野II 消化器 成人看護学⑤ 医学書院 系統看護学講座 専門分野II 運動器 成人看護学⑩ 医学書院 看護学生スタディガイド 照林社					
備考	解剖生理学、病理学総論、病態生理学、疾病と治療の復習をしておくこと 課題等の提出について、期限内に提出しない場合その講義に参加していても欠課とする					

科目名	成人看護援助論Ⅲ	時 期	2年全期	担当者	椎木 美絵／日置 敦子	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	30			
科目目標	慢性的に経過する疾患をもち、生涯にわたりセルフケア行動が必要な成人期の対象と家族を理解し、効果的なセルフマネジメントに向けた看護を学ぶ					
回数	学習内容				方法	
1	1) 腎・泌尿器疾患をもつ患者の経過・同行と看護 2) 腎・泌尿器症状に対する看護 3) 腎・泌尿器検査を受ける患者の看護				講義	
2	腎・泌尿器治療を受ける患者の看護 1) 薬物療法 2) 生検 3) 透析療法				講義 演習	
3	腎・泌尿器症状をもつ患者の看護 1) 浮腫 2) 排尿障害 3) 血尿・膿尿				講義	
4	腎・泌尿器症状をもつ患者の看護 1) 糸球体疾患 2) 尿路感染症				講義	
5	腎・泌尿器症状をもつ患者の看護 1) 腎不全 2) 糖尿病性腎症				講義 演習	
6	1) 内分泌・代謝疾患をもつ患者の経過・動向と看護 2) 内分泌・代謝症状に対する看護 3) 内分泌・代謝検査を受ける患者の看護				講義	
7	内分泌・代謝疾患治療を受ける患者の看護とその症状 1) 内分泌検査 2) 代謝検査 3) 脂質異常症				講義	
8	内分泌・代謝疾患治療を受ける患者の看護 1) 内分泌疾患 2) 下垂体疾患				講義	
9	内分泌・代謝疾患治療を受ける患者の看護 1) 甲状腺疾患 2) 副甲状腺疾患 3) 副腎疾患				講義	
10	内分泌・代謝疾患治療を受ける患者の看護 1) 代謝疾患(糖尿病・脂質異常症・尿酸代謝)				講義	
11	免疫系疾患治療を受ける患者の看護 1) 膠原病 2) アレルギー疾患 3) 感染症				講義	
12	免疫系疾患治療を受ける患者の看護 1) HIV/AIDS 2) 敗血症 3) 日和見感染				講義	
13	感覚器疾患治療を受ける患者の看護 1) 歯・口腔疾患 2) 耳鼻咽喉疾患				講義	
14	感覚器疾患治療を受ける患者の看護 1) 眼疾患 2) 皮膚疾患				講義	
15	終講試験					
受講上の注意	予習をして授業に参加する 講義を通して学びを深め、看護に役立つ知識を身に付ける 周囲の学生の勉学の妨げをしない			評価 方法	腎・泌尿器 40点 内分泌・代謝 40点 感覚器 20点	
テキスト 参考書 など	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 内分泌・代謝 成人看護学⑥/医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 腎・泌尿器 成人看護学⑧/医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 膠原病 成人看護学⑩/医学書院 看護学生スタディガイド 照林社					
備考	解剖生理学、病理学総論、病態生理学、疾病と治療の復習をしておくこと 課題等の提出について、期限内に提出しない場合その講義に参加していても欠課とする					

科目名	成人看護援助論Ⅳ	時 期	2年全期	担当者	日置 敦子/榮 琴恵/外部講師
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		時間数	30		
科目目標	がんを患う対象の生命・生活への支障・影響を理解し、症状の経過と、対象とその家族に必要な看護を理解する				
回数	学習内容				方法
1	1) 女性生殖器疾患をもつ患者の経過・動向と看護 2) 女性生殖器症状に対する看護 3) 女性生殖器検査を受ける患者の看護				講義
2	女性生殖器疾患の検査・治療を受ける患者の看護 1) ホルモン療法 2) 放射線療法 3) 手術				講義
3	女性生殖器疾患をもつ患者の看護 1) 子宮疾患 2) 卵巣疾患 3) 卵管疾患				講義
4	女性生殖器疾患をもつ患者の看護 1) 骨盤腔内疾患 2) 乳房疾患				講義
5	1) 血液・造血管の解剖生理学 2) 血液・造血管疾患をもつ患者の経過・動向と看護 3) 血液・造血管症状に対する看護				講義
6	血液・造血管検査・治療を受ける患者の看護1) 骨髄穿刺 2) 輸血療法				講義
7	血液・造血管疾患をもつ患者の看護 1) 貧血				講義
8	血液・造血管疾患をもつ患者の看護 1) 出血性疾患 2) 造血管腫瘍				講義
9	急性骨髄性白血病患者の完解導入期の看護				講義
10	急性骨髄性白血病患者の完解導入療法開始1週間目の事例検討				講義
11	骨髄移植・幹細胞移植での看護①				講義
12	骨髄移植・幹細胞移植での看護②				講義
13	化学療法を受ける患者の看護①				講義
14	化学療法を受ける患者の看護②				講義
15	終講試験				筆記試験
受講上の注意	予習をして授業に参加する 講義を通して学びを深め、看護に役立つ知識を身に付ける 周囲の学生の勉学の妨げをしない			評価 方法	女性生殖器 30点 血液・造血管 50点 骨髄移植 10点 化学療法 10点
テキスト 参考書 など	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 女性生殖器 成人看護学⑨ 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 血液・造血管 成人看護学④ 医学書院 看護学生スタディガイド 照林社				
備考	解剖生理学、病理学総論、病態生理学、疾病と治療の復習をしておくこと 課題等の提出について、期限内に提出しない場合その講義に参加していても欠課とする				

科目名	老年看護学概論	時 期	1年後期	担当者	榮 琴恵	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	15			
科目目標	老年看護学の概念及び対象について理解し、老年看護の役割を理解する 1. 老いを生きる高齢者について考え、発達課題を述べることができる 2. 高齢者の身体的、心理的、社会的、スピリチュアル的側面の特徴を理解する 3. 高齢者の保健・医療・福祉施策について理解する 4. 老年看護の概念と歴史、理論的背景について理解する					
回数	学習内容				方法	
1	老いるということ、老いを生きるということ				講義	
2	老年期を生きる人々の理解				講義	
3	超高齢社会と社会保障① 高齢者に関する統計				講義	
4	超高齢社会と社会保障② 高齢社会における保健医療福祉の動向				講義	
5	超高齢社会と社会保障③ 高齢者の権利擁護				講義	
6	老年看護のなりたち				講義	
7	老年看護における理論・概念の活用				講義、GW	
8	終講試験				筆記試験	
受講上の注意	予習・復習をして講義に臨むこと 確認テストを行う			評価 方法	終講試験、講義態度	
テキスト 参考書 など	系統看護学講座専門分野 老年看護学 / 医学書院					
備考	事前学習を怠らず出席してしっかり授業に参加すること					

科目名	老年看護援助論Ⅰ	時 期	2年前期	担当者	日置 敦子
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		時間数	30		
科目目標	高齢者の健康問題を全体的に捉え、高齢者に特有な健康障害と看護について理解する。 1. 高齢者のヘルスアセスメントについて理解する 2. 高齢者の生活機能を整える看護について理解する 3. 高齢者とのコミュニケーションの特徴を理解する 4. 高齢者の生活・療養の場における看護について理解する				
回数	学習内容				方法
1	高齢者疑似体験(校内)				講義・演習
2	高齢者疑似体験(校内)				演習
3	高齢者のヘルスアセスメント 身体に加齢変化とアセスメント①				講義
4	高齢者のヘルスアセスメント 身体に加齢変化とアセスメント②				講義
5	高齢者のヘルスアセスメント 身体に加齢変化とアセスメント③				講義
6	高齢者の生活機能を整える看護① 基本動作と環境・バーセルインデックス・FIMなど				講義
7	高齢者の生活機能を整える看護② 転倒・ 廃用症候群				講義・GW
8	高齢者の生活機能を整える看護③ 食事・食生活				講義
9	高齢者の生活機能を整える看護④ 摂食・嚥下（外部講師）				講義
10	生活・療養の場における看護（外部講師）				講義
11	高齢者の生活機能を整える看護⑤ 排泄・清潔・生活リズム				講義
12	高齢者の生活機能を整える看護⑥ 高齢者とのコミュニケーション1				講義
13	高齢者の生活機能を整える看護⑦ 高齢者とのコミュニケーション2・セクシュアリティ				講義・演習
14	高齢者の生活機能を整える看護⑧ 社会参加・高齢者学習				講義
15	終講試験				
受講上の注意	予習・復習をして講義に臨むこと 確認テストを行う			評価 方法	終講試験、講義・GW・演習態度
テキスト 参考書 など	系統看護学講座専門分野 老年看護学 / 医学書院 系統看護学講座専門分野 老年看護 病態・疾患論 / 医学書院 生活機能からみた 老年 老年看護過程 / 医学書院				
備考	事前学習を怠らず出席してしっかり授業に参加すること				

科目名	老年看護援助論Ⅱ	時 期	2年後期	担当者	川原 祥乃
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		時間数	30		
科目目標	高齢者特有の症状・疾患・治療について学び、高齢者看護の実践者として看護の役割を理解する 1. 高齢者に特有な症状と看護について理解する 2. 治療を必要とする高齢者の看護について理解する 3. 高齢者のリスクマネジメントについて学ぶ				
回数	学習内容				方法
1	症候のアセスメントと看護① 1)発熱2)痛み3)痒痒(かゆみ)				講義
2	症候のアセスメントと看護② 1)脱水2)嘔吐3)浮腫				講義
3	症候のアセスメントと看護③ 1)倦怠感2)褥瘡				講義
4	身体疾患のある高齢者の看護① 1)脳卒中2)心不全				講義
5	身体疾患のある高齢者の看護② 1)慢性閉塞性肺疾患2)肺炎3)インフルエンザ				講義
6	身体疾患のある高齢者の看護③ パーキンソン病				講義 GW
7	身体疾患のある高齢者の看護④ 1)骨粗鬆症2)骨折				講義
8	認知機能障害のある高齢者の看護① 1)うつ 2)せん妄				講義 GW
9	認知機能障害のある高齢者の看護② 認知症サポーター養成講座講義				講義
10	認知機能障害のある高齢者の看護③ 認知症				講義 GW
11	治療を必要とする高齢者の看護① 1)診察・検査を受ける高齢者の看護2)入院3)行動制限				講義 GW
12	治療を必要とする高齢者の看護① リハビリテーションを受ける高齢者の看護				講義 演習
13	治療を必要とする高齢者の看護② リハビリテーションを受ける高齢者の看護				講義 演習
14	高齢者のリスクマネジメント1)医療安全2)救命救急3)災害				講義
15	終講試験				
受講上の注意	予習・復習をして講義に臨むこと 確認テストを行う			評価 方法	レポート 講義・GW・演習態度 終講試験
テキスト 参考書 など	系統看護学講座専門分野 老年看護学 / 医学書院 系統看護学講座専門分野 老年看護 病態・疾患論 / 医学書院 生活機能からみた 老年 老年看護過程 / 医学書院				
備考	事前学習を怠らず出席してしっかり授業に参加すること				

科目名	小児看護学概論	時 期	1年後期	担当者	四俣 芳子	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	15			
科目目標	小児の成長発達や養護について学び、看護の役割を理解する 1. 子どもと家族の概況を知り、小児看護の役割と課題を理解する 2. 各期の子どもの特徴と成長・発達について学ぶ 3. 家族の特徴とアセスメントについて学ぶ					
回数	学習内容				方法	
1	子どもって、どんなイメージ？子どものイメージを描く				講義 演習	
2	小児看護の特徴と理念 1. 小児看護の目標と役割 2. 小児と家族の諸統計 3. 小児看護の変遷				講義	
3	小児看護における倫理 1. 子どもの権利 2. 子どもの成長発達と評価				講義	
4	新生児 1. 新生児の形態的特徴 2. 身体生理の特徴(呼吸・循環・体温・消化器)				講義 演習	
5	乳児 1. 形態的・身体生理の特徴 2. 感覚・運動・コミュニケーション機能 3. 乳児の養育及び看護				講義 演習	
6	幼児 1. 形態的・身体生理の特徴 2. 感覚・運動・コミュニケーション機能 3. 幼児の養育及び看護				講義	
7	学童・思春期・青年期の子ども 1. 形態的・身体生理の特徴 2. 知的・情緒的・社会機能				講義	
8	終講試験					
受講上の注意	事前学習に取り組み、授業に参加すること 講義を通して学びを深め、看護に役立つ知識を獲得する			評価 方法	演習レポート5点＋平常点5点 終講試験90点 合計100点	
テキスト 参考書 など	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児臨床看護学概論 小児臨床看護総論/医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論/医学書院 看護学生スタディガイド/照林社 小児看護実習クイックノート/照林社					
備考	解剖生理学、病態生理学の復習をしておくこと					

科目名	小児看護援助論Ⅰ	時 期	2年前期	担当者	四俣 芳子
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		時間数	30		
科目目標	新生児期・乳児期・幼児前期の子ども特有の疾患、その疾患の看護を資料の経過に沿って学ぶ。 また、さまざまな状況にある小児とその家族への看護についても学ぶ。 さらに、治療・検査・処置を受ける小児の看護では、コミュニケーションを含む看護技術や臨床判断など、小児看護のより実践的な能力を習得する				
回数	学習内容				方法
1	子どもの視界を体験しよう！(チャイルドビジョン作成)				演習
2	事故・外傷時の対処・処置と看護				講義
3	先天異常をもつ子どもと家族の看護 家族の理解と受容過程とケア				講義
4	描記や障害に対する子どもと家族の反応および看護 障害のある子どもの発達の特徴				講義
5	消化器疾患をもつ子どもと家族の看護				講義
6	消化器疾患をもつ子どもの事例からのアセスメントと看護				講義
7	呼吸器疾患をもつ子どもと家族の看護				講義
8	循環器疾患をもつ子どもと家族の看護				講義
9	循環器疾患をもつ子どもの事例からのアセスメント看護				講義
10	感染症に罹患した子どもと家族の看護				講義
11	感染症に罹患した子どもの事例からのアセスメントと看護				講義
12	子どもによく見られる症状とその看護 グループごとに12症状(発熱・脱水・腹痛・痙攣・ショック・喘息・心不全・チアノーゼ・易感染・出血・血尿・浮腫)を協同学習する				協同学習
13	12症状(発熱・脱水・腹痛・痙攣・ショック・喘息・心不全・チアノーゼ・易感染・出血・血尿・浮腫)についてのグループ発表				協同学習
14	新生児期・乳幼児期・幼児前期の子ども特有の疾患と看護のまとめ				TBL
15	終講試験及び総括				
受講上の注意	事前学習(ワークシート)に取り組み、授業に参加すること 講義を通して学びを深め、看護に役立つ知識を獲得する			評価 方法	TBL10点＋終講試験90点の 合計100点
テキスト 参考書 など	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児臨床看護学概論 小児臨床看護総論/医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論/医学書院 看護学生スタディガイド/照林社 小児看護実習クイックノート/照林社				
備考	解剖生理学、病態生理学の復習をしておくこと				

科目名	小児看護援助論Ⅱ	時 期	2年後期	担当者	四俣 芳子
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		時間数	30		
科目目標	幼児後期・学童期・思春期・青年期の子ども特有の疾患、その疾患の看護を資料の経過に沿って学ぶ。 また、さまざまな状況にある小児とその家族への看護についても学ぶ。 さらに、治療・検査・処置を受ける小児の看護では、コミュニケーションを含む看護技術や臨床判断など、小児看護のより実践的な能力を習得する				
回数	学習内容				方法
1	小児外来トリアージの定義・方法について～事例を通しての臨床判断の実際～				講義
2	被虐待児と家族への看護 虐待の影響・虐待を受けた子どもへの包括的ケア				講義
3	代謝性・内分泌・アレルギー性疾患をもつ子どもと家族の看護				講義
4	血液・造血器疾患・悪性新生物に罹患した子どもと家族の看護				講義
5	腎・泌尿器および生殖器疾患をもつ子どもと家族の看護				講義
6	腎・泌尿器および生殖器疾患をもつ子どもの事例からのアセスメントと看護				講義
7	神経疾患をもつ子どもと家族の看護 在宅療養における小児看護の特徴及び看護				講義
8	運動器疾患をもつ子どもと家族の看護				講義
9	皮膚・眼・耳鼻咽喉疾患をもつ子どもと家族の看護				講義
10	精神疾患をもつ子どもと家族の看護				講義
11	災害時の子どもと家族の看護 被災地の環境と心身への影響・災害時の在宅看護				講義
12	子どもの看護に必要な技術(計測、バイタルサイン測定、フィジカルアセスメント、検査時の介助)				演習
13	子どもの看護に必要な技術(ハイムリック法、P B L S、臀部浴)				演習
14	幼児期後期・学童期・思春期・青年期の子ども特有の疾患と看護のまとめ				TBL
15	終講試験及び総括				
受講上の注意	講義を通して学びを深め、看護に役立つ知識を獲得する			評価方法	TBL15点＋平常点5点＋終講試験80点 合計100点
テキスト参考書など	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[1] 小児臨床看護学概論 小児臨床看護総論/医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 小児看護学[2] 小児臨床看護各論/医学書院 看護学生スタディガイド/照林社 小児看護実習クイックノート/照林社				
備考					

科目名	母性看護学概論	時 期	1年後期	担当者	小林 麻美	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	15			
科目目標	母性看護の基盤となる概念、母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を理解し、女性のライフステージ各期における健康問題やニーズを分析すると共に、母性看護実践に必要な知識・能力を養う					
回数	学習内容					方法
1	・母性看護学概論の概要 ①母性の概念・定義・母性の特性、母子関係と家族発達					講義
2	・母性看護の基盤となる概念 ①セクシャリティ ②ヘルスプロモーション ③母性看護のあり方 ④母性看護における倫理					講義
3	・母性看護の取り巻く社会の変遷と現状（母性看護の変遷、母子保健統計の動向）					講義
4	・母性看護の基盤となる概念 ①母性看護の歴史的変遷と現状（母性看護に関する組織と法律・施策等） ②母性看護の対象を取り巻く環境（家族、地域社会、生物学的環境）					講義
5	・母性看護の対象理解、女性のライフステージ各期における看護 ①ライフサイクル期における女性の健康と看護 ②思春期の健康と看護					講義
6	・女性のライフステージ各期における看護 ①思春期の健康と看護 ②性成熟期の健康と看護					講義
7	・女性のライフステージ各期における看護 ①更年期の健康と看護 ・リプロダクティブヘルスケア ①家族計画 ②喫煙女性の健康と看護 ③性暴力を受けた女性に関する看護					講義
8	・総括及び終講試験					講義、試験
受講上の注意	※解剖生理学・看護関係法規を復習することが望ましい			評価方法	ペーパーテスト100点	
テキスト参考書など	<テキスト>系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学【1】母性看護学概論／医学書院 看護学生スタディガイド 照林社 <参考書> 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護／ナースンググラフィカ ウイメンズヘルスナースング概論 女性の健康と看護／NOUVELLE HIROKAWA 助産学講座 地域母子保健・国際母子保健/医学書院 第2巻 女性の健康とケア/日本看護協会出版会 財団法人母子衛生研究会、母子保健の主なる統計（令和4年度）／公益財団法人母子衛生研究会 安斎正郷 国民健康・栄養の現状／令和元年 厚生労働省国民健康・栄養調査報告より 第一出版 岡村州博編集 これならわかる産科学 学生から研修医までをトータルサポート／南山堂、2010 国民衛生の動向 /厚生労働統計協会					
備考	母性看護には、様々な関係法規・衛生動向が存在しており、日頃より社会情勢に興味・関心を持つ習慣を身に付けるようする					

科目名	母性看護援助論Ⅰ	時 期	2年前期	担当者	小林 麻美	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	30			
科目目標	1. 妊娠期（胎児）から分娩・産褥及び新生児期までの正常な経過を理解し、対象の経過に応じた看護の基礎を学ぶ 2. 新しい家族の誕生期において、様々な役割変化を遂げる家族の発達と看護を学ぶ					
回数	学習内容				方法	
1	妊娠期における看護① ・妊婦の身体的・心理的特性・胎児の発育と経過				講義	
2	妊娠期における看護② ・妊娠期の社会的特性及び妊婦と胎児のアセスメント				講義	
3	妊娠期における看護③ ・妊婦と家族の看護、妊婦の保健相談の実際、親になるための準備教育				講義	
4	分娩期における看護① 分娩の要素と経過				講義	
5	分娩期における看護② 産婦・胎児・家族のアセスメント				講義	
6	2.分娩期における看護③ 産婦と家族の看護、分娩期の看護の実際				講義	
7	3.新生児期における看護① 新生児の生理				講義	
8	新生児における看護② 新生児アセスメント				講義	
9	新生児期における看護③ 出生直後から生後24時間以内の看護、出生後から退院時までの看護				講義	
10	産褥期における看護① 褥婦の身体・心理・社会的変化				講義	
11	4.正常に経過する産褥期の看護 3) 母乳育児を支える看護				講義	
12	産褥期における看護② 褥婦のアセスメント				講義	
13	産褥期における看護③ 退院後の生活に向けての看護				講義	
14	・妊娠期、分娩期、新生児期、産褥期総括				講義	
15	・終講試験				試験	
受講上の注意	講義前は、テキストを読み個人workを仕上げ講義へ参加する			評価方法	ペーパーテスト100点	
テキスト参考書など	<テキスト> 系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学【2】母性看護学各論 /医学書院 看護学生スタディガイド/照林社 <参考書> 助産診断技術学Ⅱ 【1】妊娠期/医学書院 助産診断技術学Ⅱ 【2】分娩期・産褥期/医学書院 助産診断技術学Ⅱ 【3】新生児期・乳幼児期/医学書院 The Lateset Obstetrics Nomal Pregnast woman22nd edition 最新産科学 正常編/文光堂 病気がみえるvol. 10 /MEDIC MEDIA マタニティサイクルにおける母子の健康と看護 /メデカルフレンド社 母性看護学Ⅱ 周産期各論 第2版/医歯薬出版					
備考						

科目名	母性看護援助論Ⅱ	時 期	2年後期	担当者	小林 麻美/外部講師	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	30			
科目目標	1. ハイリスクな状況にある妊婦・産婦・褥婦および新生児の看護について理解する 2. 不妊という健康問題の身体的・社会的側面と治療的側面を理解し、不妊治療を受ける夫婦への看護について学ぶ 3. 母性看護の倫理的問題（出生前診断・生殖補助医療・人工妊娠中絶等）について考察する					
回数	学習内容				方法	
1	1. 出生前診断 2. 不妊治療				D r / 講義	
2	1. 妊娠期の異常 ①ハイリスク妊娠②妊娠期の感染症③多胎妊娠④多胎妊娠⑤切迫流早産 ⑥子宮外妊娠				D r / 講義	
3	2. 分娩期の異常 ①産道の異常 ②娩出力の異常 ③胎児の異常による分娩障害 ④胎児付属物の異常 ⑤分娩時の損傷 ⑥分娩第3期及び分娩直後の異常 ⑦分娩時異常出血⑧産科処置と産科手術				D r / 講義	
4	3. 産褥期の異常 ①子宮復古不全 ②産褥期の発熱 ③産褥血栓症 ④精神障害				D r / 講義	
5	4. 新生児期の異常 ①新生児仮死②分娩外傷③低出生体重児④高ビリルビン血症				D r / 講義	
6	1. 妊娠期に異常のある看護 ①ハイリスク妊婦の看護（高年齢・若年、肥満・過体重増加、ART後、合併症を有する妊婦の看護）				教員 / 講義	
7	2. HDP切迫早産・早産、多胎、その他問題を持つ妊婦の看護				教員 / 講義	
8	1. 分娩期に異常のある看護 ①異常のある産婦の看護 ②異常分娩を受ける産婦の看護（Prom・分娩遅延リスク・NRFS・C / S） ③急速速産を受ける産婦の看護 ④分娩時異常出血のある産婦の看護（弛緩出血・頸管裂傷・膣及び会陰血腫・会陰裂傷）				教員 / 講義	
9	1. 新生児期に異常のある看護 ①低出生体重児の看護 ②高ビリルビン血症児の看護				教員 / 講義	
10	■新生児 1.バイタルサイン測定 2.沐浴・寝衣交換・オムツ交換 3.抱っこ・コットへの寝かせ方・移送・お離巻・K2シロップ投与・ミルク哺乳介助				教員 / 技術演習	
11	■妊婦期 1.子宮底長計測・腹囲測定 2.レオポルド触診法 3.妊婦体験・トコチャンベルト装着					
12	■分娩期 1.産痛緩和法・マッサージ及び圧迫法 2.分娩監視装置モニター装着法 ■産褥期 1.産褥体操・乳管開通法・授乳介助法					
13	1. 産褥期に異常のある看護①感染症を有する褥婦の看護②乳房トラブル ③本人・健康上問題がある褥婦の看護				教員 / 講義	
14	2. 産褥期に異常のある看護①育児に困難を抱える母親への看護 ②児をなくした褥婦・家族の看護 ③メンタルヘルスの問題を抱える母親への看護				教員 / 講義	
15	・総括及び終講試験				試験	
受講上の注意				評価方法	D r (40点) + 教員(60点) 計100点	
テキスト参考書など	<テキスト> 専門Ⅱ 母性看護学【2】母性看護学各論 医学書院 看護学学生スタディガイド 照林社 <参考書> ハイリスク妊娠褥婦・新生児ケア 日本看護協会出版会 The Lateset Obstetrics Nomal Pregnant woman22nd edition 最新産科学 正常編/文光堂 病気がみえるvol. 10 MEDIC MEDIA					
備考						

科目名	精神看護学概論	時 期	1年後期	担当者	島 繁久	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	15			
科目目標	1. 精神看護の目的と意義を学ぶ					
回数	学習内容				方法	
1	社会環境の変化と社会病理について・精神看護とは、精神看護学の考え方・精神の健康と障害				講義	
2	人間の心のはたらき				講義	
3	心のしくみと人格の発達				講義	
4	危機介入とストレス理論				講義	
5	関係の中の個人				講義	
6	社会の中の精神障害				講義	
7	精神障害と制度				講義	
8	まとめと終講試験				講義	
受講上の注意	事前学習（ワークシート）に取り組み、授業に参加すること 講義を通して学びを深め、看護に役立つ知識を身に付ける			評価 方法	授業への参加度、レポート、筆記試験、出席状況	
テキスト 参考書 など	系統看護学講座(専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学講座 [1] 医学書院)					
備考	解剖生理学、病態生理学の復習をしておくこと					

科目名	精神看護援助論Ⅰ	時 期	2年前期	担当者	島 繁久
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		時間数	30		
科目目標	1. 患者-看護師関係成立発展について学ぶ				
回数	学習内容				方法
1	精神看護におけるコミュニケーション技術について 1) 患者との接触場面においての言葉の選び方				講義 演習
2	精神看護におけるコミュニケーション技術について				講義 演習
3	患者-看護師関係の発展過程について				講義
4	ベプロウの人間関係論 患者-看護師関係の4つの側面 看護の役割				講義
5	プロセスレコードと再構成 1) プロセスレコードについて 2) プロセスレコードの書式の意味				講義
6	プロセスレコードと再構成 3) プロセスレコードの実際				講義
7	入院治療と看護の展開 1) 入院の意味 2) 治療の環境				講義
8	入院治療と看護の展開 3) 安全 4) 緊急事態の対処				講義
9	入院治療と看護の展開 5) 回復に向けた援助				講義
10	入院治療と看護の展開 ① さまざまな精神症状				講義
11	入院治療と看護の展開 ② 統合失調症				講義
12	入院治療と看護の展開 ③ 気分障害 (双極性障害 抑うつ ④ 神経症性障害				講義
13	入院治療と看護の展開 ⑤ 精神作用物質による障害 ⑥ 発達障害 ⑦ 摂食障害 ⑧ パーソナリティ障害				講義
14	精神科における身体のケア 身体に現れる心の痛み 精神科の治療と身体のケア 日頃から気をつけておきたい身体合併症				講義
15	総括及び終講試験				
受講上の注意	事前学習(ワークシート)に取り組み、授業に参加すること 講義を通して学びを深め、看護に役立つ知識を身に付ける			評価 方法	終講試験60%、演習・発表・出席状況40%
テキスト 参考書 など	系統看護学講座 (専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学 [1]、専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学 [2]) / 医学書院 国民衛生の動向 ナーシンググラフィカ(情緒発達と看護の基本、生活障害と看護の実践)/ メディカ出版 自己理解・他者理解を深めるプロセスレコード 新体系看護学全書 (精神看護学①精神看護学概論 精神保健、精神看護学②精神障害を持つ人の看護)				
備考	解剖生理学、病態生理学の復習をしておくこと				

科目名	精神看護援助論Ⅱ	時 期	2年後期	担当者	島 繁久
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		時間数	30		
科目目標	1. 地域精神保健活動の目標、精神障がい者のリハビリテーション、地域精神保健に関する制度と施設を理解する 2. 身体疾患に伴う精神症状の看護を理解する 3. リエゾン精神医学・リエゾン精神看護を理解する				
回数	学習内容				方法
1	地域における精神看護 とは				講義
2	地域における精神看護 とは 患者が地域で生活するための原則				講義
3	地域における精神看護 とは 患者の生活を支える制度				講義
4	地域における精神看護 とは 地域で精神障害者を支援するための方法				講義
5	地域における精神看護 とは 地域での看護の実際				講義
6	精神科における身体のケア 身体に現れる心の痛み 精神科の治療と身体のケア				講義
7	精神科における身体のケア 日頃から気をつけておきたい身体合併症				講義
8	身体疾患と精神看護について HIV感染症・透析・腎移植・手術後・身体損傷と精神症状				講義
9	災害時のメンタルヘルスと看護				講義
10	リエゾン精神看護の目標と機能 ・リエゾン精神看護師の役割				講義
11	コミュニティにおける精神保健・精神看護 1）学校における精神保健・精神看護				講義
12	コミュニティにおける精神保健・精神看護 2）職場における精神保健・精神看護				講義
13	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 感情労働としての看護				講義
14	看護における感情労働と看護師のメンタルヘルス 看護師の感情ワーク 感情労働の代償				講義
15	終講試験				
受講上の注意	事前学習（ワークシート）に取り組み、授業に参加すること 講義を通して学びを深め、看護に役立つ知識を身に付ける			評価 方法	終講試験60%、発表・レポート・出席状況40%
テキスト 参考書 など	系統看護学講座（専門分野Ⅱ 精神看護の基礎 精神看護学 [1]、専門分野Ⅱ 精神看護の展開 精神看護学 [2]）/ 医学書院 国民衛生の動向 ナーシンググラフィカ(情緒発達と看護の基本、生活障害と看護の実践)/ メディカ出版 自己理解・他者理解を深めるプロセスレコード 新体系看護学全書（精神看護学①精神看護学概論 精神保健、精神看護学②精神障害を持つ人の看護）				
備考	解剖生理学、病態生理学の復習をしておくこと				

科目名	災害・国際看護	時 期	3年後期	担当者	有川 ゆかり/米田 智美	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として、災害派遣やDMAT隊員、国際医療活動に携わった経験をもとに講義を行う。	
		時間数	30			
科目目標	<災害看護> 1. 災害直後から支援できる看護の基礎知識について理解できる 2. 人間の生命と生活を守ることができるよう統合的な看護を展望できる <国際看護> 1. 諸外国の健康問題とそれに対する看護活動の実践について理解できる 2. 日本における国際看護協力の歴史と現状について理解できる 3. 全世界の人々の健康問題に対する看護の貢献を考えることができる					
回数	学習内容				方法	
1	災害看護の基礎知識 1) 災害時要請者への理解とネットワークの重要性 ①災害の定義 ②災害サイクルと救助活動 ③鹿児島における防災対策				講義	
2	初動期（超急性期・急性期）における看護活動 ①救護活動の基本（CSCATTT）				講義	
3	トリアージについて				講義	
4	急性期・亜急性期における看護活動 1) 避難所における看護活動 2) 災害時要援護者の理解と対応				講義	
5	被災者の心理・援助者の心理への理解と援助 1) 被災者のこころのケア、救助者のこころのケア				講義、ロールプレイ	
6	亜急性期・復旧復興期の看護活動 1) 災害時における保健・衛生管理・感染対策				講義	
7	救援所での応急手当（包帯法・運搬法）				演習	
8	災害時シュミレーション（避難所における救護活動の実践）				演習	
9	災害時シュミレーションの振り返り				講義	
10	総括及び終講試験				講義、筆記試験	
11	国際看護の概念・異文化と看護				講義	
12	保健医療を取り巻く諸条件				講義	
13	国際協力のしくみと看護の役割				講義	
14	国際協力と看護活動の実践				講義	
15	開発途上国にみる保健医療システムと看護 総括及び終講試験				講義、筆記試験	
受講上の注意	予習をして授業・演習に参加する 復習をして授業・演習に臨む			評価 方法	筆記試験 授業・演習態度	
テキスト 参考書 など	看護学生テキスト 統合と実践 災害看護 寄り添う、つながる、備える/学研 看護学生テキスト 統合と実践 国際看護 言葉・文化をこえた看護の本質を体現する/学研					
備考	事前学習を怠らず出席してしっかり授業・演習に参加すること					

科目名	医療安全	時 期	3年全期	担当者	川原 祥乃	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。	
		時間数	30			
科目目標	医療システムの中の危険要因を知り、日常生活の援助・診療の補助技術における事故防止のための知識・技術を習得する					
回数	学習内容				方法	
1	医療安全と看護の理念 1) 医療安全の意味と重要性 2) 看護職の法的規定と医療安全				講義	
2	医療安全への取り組みと医療の質の評価 1) 国の医療安全への取り組み 2) 看護職能団体の取り組み 3) 国および医療関係団体の示す医療事故の定義と分類 4) 医療安全管理者（医療安全の中心的役割）				講義	
3	5) 医療事故への対応 6) 医療事故の被害者（患者）・家族の思いに寄り添ったケア 7) 医療事故の報告制度 8) 医療の質の評価				講義	
4	事故発生のメカニズムとリスクマネジメント 1) 事故発生のメカニズム 2) 事故分析 3) 事故対策				演習	
5	チームで取り組む安全文化の醸成 1) チーム医療の発展と課題 2) チームSTEPPS 3) エビデンスに基づいた協働の成果				演習	
6	看護業務に関する事故と安全対策 1) 看護業務と事故発生要因 2) 誤薬と与薬事故：分析と対策 3) 患者取り違え（誤認）：分析と対策 4) 針刺し：分析と対策				講義	
7	5) 転倒転落：分析と対策 6) 誤嚥：分析と対策 7) 遺物遺残：分析と対策 8) 皮膚障害：分析と対策				講義	
8	9) 医療機器のトラブル：分析と対策 10) 検査・処置時のトラブル：分析と対策 11) チューブ類のトラブル：分析と対策 12) 電子カルテ等情報伝達時のトラブル：分析と対策				講義	
9	在宅看護における医療事故と安全対策 1) 在宅看護の現状 2) 在宅看護における医療事故とその対応 3) 在宅看護におけるリスク管理の現状と課題 4) 高齢者施設、介護施設等での安全対策				講義	
10	医療従事者の安全を脅かすリスクと対策 1) 看護職の業務上の危険とは 2) 感染の危険を伴う病原体への暴露 3) 職業感染に対する予防策 4) 医療機器・機材の使用に関わるリスクと対策				演習	
11	5) 医療品への暴露 6) 労働形態、作業に伴うもの 7) 患者、同僚および第三者による暴力				演習	
12	看護学生の実習と安全				グループワーク	
13	看護学生の実習と安全				グループワーク	
14	看護学生の実習と安全				グループワーク	
15	総括及び終講試験				筆記試験	
受講上の注意	予習をして授業・グループワークに参加する 復習をして授業・グループワークに臨む			評価 方法	筆記試験 授業・演習態度	
テキスト 参考書 など	テキスト：ナースング・グラフィカ 看護の統合と実践② 医療安全/メディカ出版 参考書：ナースのための危険予知トレーニング					
備考	事前学習を怠らず出席してしっかり授業に参加すること					

科目名	看護管理	時 期	3年前期	担当者	伊地知 寿美	
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師・認定看護管理者としての病院勤務、また、看護学修士として研究に携わった経験をもとに講義を行う。	
		時間数	15			
科目目標	1. 対象者に質の高いサービスを提供するための看護管理の基礎知識を理解できる 2. 組織におけるチーム医療及び他職種との協働について学び、看護組織の業務を行う一員としての役割や責任について理解できる					
回数	学習内容				方法	
1	1. 看護部門の組織 1) 組織 2) 病院組織における看護部門の位置づけ・役割・責務 2. 看護とマネジメント 1) 看護管理学とは 2) 看護におけるマネジメント				講義	
2	看護ケアのマネジメント 1) 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2) 患者の権利の尊重 3) 安全管理 4) チーム医療 5) 看護業務の実践（日常業務マネジメント）				講義	
3	看護職のキャリアマネジメント 1) キャリアとキャリア形成 2) 看護職のキャリア形成 3) 看護専門職としての成長（社会化） 4) タイムマネジメント 5) ストレスマネジメント				講義	
4	看護サービスのマネジメント 1) 看護サービスのマネジメント（組織として看護サービスをマネジメントする） 2) 組織目的達成のマネジメント（組織としての目的を達成するための） 3) 看護サービス提供のしくみづくり 4) 人材のマネジメント				講義	
5	5) 施設・設備環境のマネジメント 6) 物品のマネジメント 7) 情報のマネジメント 8) 組織におけるリスクマネジメント 9) サービスの評価				講義	
6	マネジメントに必要な知識と技術 1) マネジメントとは 2) 組織とマネジメント 3) リーダーシップとマネジメント 4) 組織の調整 ①集団 ②組織文化 ③コミュニケーション ④動機づけ ⑤パワーとエンパワメント ⑥コンフリクト ⑦変化と変革				講義	
7	看護を取り巻く諸制度 1) 看護の定義 2) 看護職 3) 医療制度 4) 看護政策と制度				講義	
8	総括及び終講試験				筆記試験	
受講上の注意	予習をして授業に参加する 復習をして授業に臨む			評価 方法	筆記試験 授業態度	
テキスト 参考書 など	テキスト：系統看護学講座（統合分野 看護管理 看護の統合と実践①）/医学書院					
備考	事前学習を怠らず出席してしっかり授業に参加すること					

科目名	看護研究	時 期	3 年全期	担当者	川原 祥乃
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		時間数	30		
科目目標	看護研究の基礎と方法を理解する				
回数	学習内容				方法
1	看護研究の概観				講義
2	看護研究における文献検索：文献の種類、文献の入手先				講義
3	看護研究における倫理的配慮				講義
4	質的研究と量的研究における基本要素、研究プロセスの概観				講義
5	研究の概念：研究問題・研究設問と仮説				講義
6	研究の概念：文献レビュー				講義
7	看護研究のためのデザイン				講義
8	研究計画書作成				演習
9	研究計画書作成				演習
10	抄録作成				演習
11	発表原稿と補助資料作成				演習
12	看護研究発表				発表
13	看護研究発表				発表
14	看護研究発表				発表
15	看護研究発表				発表
受講上の注意	事前に研究テーマに取り組み、授業に参加すること			評価方法	研究計画書・研究発表の総合評価100点
テキスト 参考書 など	新版 看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方 テーマの決め方からレポート作成・発表まで 照林社				
備考					

科目名	OSCE	時 期	3 年前期	担当者	有村 かおり
		単位数	1	実務 経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		時間数	30		
科目目標	事例の対象の状況に応じて、既習した知識を活用し、安全・安楽・自立を考慮した看護実践能力を養う				
回数	学習内容				方法
1	OSCEの目的、具体的な進め方や評価方法、専門家グループの作成、担当課題決定 グループ学習（演習の目的・目標、仲間づくり、担当課題決定と専門家グループ決定）				講義・個人ワーク・GW
2	専門家グループ学習（技術に潜む因子の把握、技術の原則及び注意点、チェックリストの作成）				講義・個人ワーク・GW
3	専門家グループ学習（技術に潜む因子の把握、技術の原則及び注意点、チェックリストの作成）				個人ワーク・GW
4	専門家グループ学習（技術に潜む因子の把握、技術の原則及び注意点、チェックリストの作成）				個人ワーク・GW
5	仲間への説明（担当課題の仲間への説明、仲間による対象理解に必要な学習課題の整理）				個人ワーク・GW
6	患者理解のためのアセスメント、必要な看護計画立案				個人ワーク・GW
7	患者理解のためのアセスメント、必要な看護計画立案				個人ワーク・GW
8	患者の状況に応じた看護計画の追加・修正				講義
9	患者の状況に応じた看護計画の追加・修正				講義
10	看護計画に沿った援助を安全・安楽・自立に配慮した実践 （リフレクションし、看護計画に追加・修正）				演習
11	看護計画に沿った援助を安全・安楽・自立に配慮した実践 （リフレクションし、看護計画に追加・修正）				演習
12	看護計画に沿った援助を安全・安楽・自立に配慮した実践 （リフレクションし、看護計画に追加・修正）				演習
13	看護計画に沿った援助を安全・安楽・自立に配慮した実践 （リフレクションし、看護計画に追加・修正）				演習
14	OSCE（客観的臨床能力試験）				
15	OSCE（客観的臨床能力試験）				
受講上の注意	事前学習（ワークシート）に取り組み、授業に参加すること 講義・個人ワーク・グループワークを通して学びを深め、看護に役立つ知識を身に付ける			評価 方法	出席 5 点 専門家グループ20点（個人含む） 個人（援助計画レポート）15点 OSCE 60点
テキスト 参考書 など	課題に応じた全領域のテキスト				
備考	解剖生理学、病態生理学の復習をしておくこと				

科目名	看護を知る実習	時期	1年前期	担当者	四俣芳子 他
		単位数	1	実務経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		時間数	40		
実習目的	対象者（病気をもち地域で暮らす生活者）の療養環境や看護活動の実際を知る				
実習内容					
病院	I．実習期間：4.5日間のうちの2日間（8:00～15:45） II．実習場所：病院（外来・病棟）、訪問看護ステーション III．実習方法 1．事前学習 1）事前課題を決められた日時に提出する 2．実習内容 1）1日目は病院オリエンテーションを受け、病院内を見学する 2）午後から病棟オリエンテーションを受ける ①病棟で働く看護師を見学をする ②入院中の患者とのコミュニケーションを図る 3）2日目は外来で、初診患者の同行実習（受付から会計まで）とする 4）午後からは外来で働く看護師を見学をする				
保健福祉施設	I．実習期間：4.5日間のうちの1日間（8:00～15:45） II．実習場所：【保健福祉施設】 【幼稚園・保育園】 III．実習方法 1．事前学習 1．事前学習 1）事前課題を決められた日時に提出する 1）事前課題を決められた日時に提出する 2．実習内容 2．実習内容 1）施設のオリエンテーションを受ける 1）園のオリエンテーションを受ける 2）対象者とコミュニケーションを図る 2）子どもとコミュニケーションを図る 3）デイケア、デイサービスを見学する 3）保育の実際を見学する 4）日常生活援助を見学する				
訪問看護ステーション	I．実習期間：4.5日間のうちの1日間（8:00～15:45） II．実習場所：【訪問看護ステーション】 III．実習方法 1．事前学習 1）事前課題を決められた日時に提出する 2．実習内容 1）施設オリエンテーションを受ける 2）訪問看護の実際を見学する				
学内実習	I．実習期間：4.5日間のうちの0.5日間（9:00～12:20） II．実習まとめ（学びの発表）				
実習評価は評価表（ルーブリック）に基づき評価する					

科目名	基礎看護学実習	時期	1年後期	担当者	松山めばえ 他
		単位数	1	実務経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		時間数	40		
実習目的	受け持ち患者を理解し、既習の基礎的知識・技術を活用して、対象に必要な日常生活援助の理解を深め、看護師としての態度を養う				
実習内容					
病院	I. 実習期間：4日間（8:00~15:45） II. 実習場所：病院 III. 実習方法 1. 事前学習 1）事前学習を決められた日時に提出する 2）バイタルサイン測定と日常生活援助技術を練習する 2. 実習内容 1）患者1人を受け持つ 2）実習計画を立て、指導者・教員の指導を受けながら実践する 3）バイタルサイン測定と対象の日常生活情報を収集し、必要な日常生活援助技術を指導者・教員の指導のもと、安全・安楽に行う 4）テーマに沿った毎日の学生カンファレンスを実施し、実習最終日は終了カンファレンスを行う ※詳細は、基礎看護学実習要項参照 3. 実習評価 1）基礎看護学実習評価表に基づき評価を行う				
学内	I. 実習期間：病院実習終了の翌日（4時間） II. 実習場所：学内 III. 実習方法 1. グループディスカッション 1）実習記録、リフレクションシート、終了レポート、各病棟カンファレンスファイルをもとに行う 2. 各病棟グループごとに『看護とは』まとめの資料を作成する 3. 発表				

科目名	看護過程実習	時期	2年後期	担当者	松山めばえ 他
		単位数	2	実務経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		時間数	80		
実習目的	健康障害のある対象を総合的に把握し、対象に応じた看護過程を用いて、科学的根拠に基づいた看護の実践ができる能力を養う				
実習内容					
病院	Ⅰ．実習期間：9日間（8:00～15:45） Ⅱ．実習場所：病院 Ⅲ．実習方法 1．事前学習 1）事前課題を決められた日時に提出する 2）技術 7 1 項目を確認しながら技術を練習する 2．実習内容 1）病院・病棟オリエンテーション 2）基本的な看護過程の展開を活用して、根拠に基づいた看護を実践する ①患者の必要な情報を意図的に情報収集する （常在条件、病理的状态、データベース） ②情報を分析・解釈し、基本的ニーズの充足・未充足を判別する ③収集した情報の看護関連図の作成 ④看護問題を明確化する（看護診断） ⑤期待される結果を設定する ⑥看護援助を計画立案する ⑦看護援助の実施および評価 ⑧看護計画の見直し（追加・修正） ⑨看護援助を実施し、看護目標の達成を評価する ⑩自己の看護の振り返りとまとめ 3）毎日カンファレンスを実施し、看護の方向性の確認をする 4）中間カンファレンス・終了カンファレンスを行う 5）ナラティブレポートを記載し、実習終了後の学内で報告会発表 ※詳細は、看護過程実習要項参照 3．実習評価 1）看護過程実習評価表に基づき評価を行う				

科目名	地域・在宅看護論実習	時期	3年全期	担当者	川原祥乃他
		単位数	2	実務経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		時間数	80		
科目目標	対象（療養者と家族）が「生きた人」であり、環境も考え方や生き方そのものも、一人ひとり異なり、健康状態の変動と同様に心理状態や考え方も揺らぎ、悩み、変化するものであることを学ぶ 1. 「生活の場」を理解し、人と人が支えあう仕組みについて学ぶ 2. 医療的管理を要する療養者について、個別性と多様性に焦点をあて、暮らしの場で実践されている看護について学ぶ 3. 個々のケースが有する課題の解決にむけて、個々のケース毎に編成された支援チームの成り立ちと、専門職チームの中での看護の役割について学ぶ				
回数	内 容				
	訪問看護ステーション（40時間）居宅介護支援事業所(20時間）長寿あんしん相談センター（10時間）地域の社会資源（6時間）学内まとめ(4時間) 1. 施設の概要および地域の特性などに関する施設オリエンテーション 1)実習施設の概要：設置主体および組織、施設の特徴、活動理念、職員構成など 2)管轄地域の特徴や地域に存在する社会資源、連携機関、支援組織など 3)利用者の概要：利用者数、訪問看護利用の保険種類別、年齢、要介護度、主要疾患 医療の状況、世帯および介護者の状況など 4)主な看護ケア内容 5)看護記録などの種類と閲覧方法 6)その他、実習中の施設利用のルールおよび訪問時のマナーなど 2. 訪問看護師などとの同行訪問 1)1日2～3事例の訪問 2)所内での情報整理・分析に充当する時間を持つ 3)受け持ち療養者への継続訪問 4)複数ケースへの訪問を通して、個別性と多様性を理解 3. 担当者会議、退院前訪問などの多職種との連携・協働場面への参加 4. セラピストの配置や、関連する事業所が併設されている実習施設において、可能であれば、各関連職種の活動や、看護の連携について学ぶ 5. 可能な限り毎日カンファレンスを行い、学生が体験した学習内容の共有と、疑問点やテーマに沿ったディスカッションを通して学びを深める場とする				

科目名	クリティカルケア実習	時期	3年全期	担当者	椎木美絵 他
		単位数	3	実務経	
		時間数	120	験内容	
実習目的	急性期にある患者の特徴を理解し、健康段階・発達段階に応じた看護援助を実施し、評価することができる				
実習内容					
病 院	Ⅰ. 実習期間：12日間（8：00～15：45）病棟10日間、他部門2日間他 Ⅱ. 実習場所：各病院機関 Ⅲ. 実習方法 1. 事前学習 1) 事前課題を決められた日時に提出する 2) 技術71項目を確認しながら技術を練習する 3) 実習要項を熟読しておく 2. 実習内容 1) 実習病棟の特徴を事前に把握しておく 2) 実習初日に臨床指導者より病棟オリエンテーションを受ける 3) 病棟師長または臨床指導者より受け持ち患者紹介をうける 4) 受け持ち患者に挨拶をし、コミュニケーションがスムーズに図れるようにする 5) 情報収集は、カルテだけではなく患者本人とのコミュニケーションを通し得られるよう関わりをもつ 6) 実習中は毎日日々の行動記録を具体的に記載し指導者に助言を仰ぐ 指導後は速やかに追加・修正を行い、再度、助言を仰ぐ（発表） 7) 日々の行動記録にそって看護援助を実施する 実施の際には、アセスメント後計画立案を行い指導・助言後、実施する 8) 実施後は必ず指導者と振り返りを行い、今後の看護援助に活かす 9) 実習中は、指導者と報告・連絡・相談を行い、指導を仰ぎながら主体的に積極的に実施する 10) 実習終了時は、1日の看護援助や患者との関わりについて振り返り、また、目標達成について具体的に簡潔に報告する 11) 実習記録用紙は別途提示する（実習要項参照） 必要時各自で印刷する 12) 実習記録はファイルに綴り整理し紛失しないよう留意する また、患者の病室、コンビニ等で閲覧しない メモ帳に関しては必ずフック付きのチェーンまたは紐を通す 13) 学生カンファレンスは病棟実習終了後、30分テーマ設定を行い実施する 中間・最終カンファレンスは指導者と日程調整を行い指定場所で実施する 14) 指導者より記録物やレポート提出を求められたら、必ず、期日を順守する 15) 実習進度については、実習要領を確認する				
	Ⅰ. 実習期間：病院実習前後12時間 Ⅱ. 実習場所：学内実習室 Ⅲ. 実習方法 1. 実習前シミュレーション実習 1) シミュレーターでバイタルサイン測定が正確にできるよう タスクトレーニングを実施する 2) 発達段階に応じたコミュニケーションを練習する 2. 実習後シミュレーション実習 1) 受け持ち患者の事例をもとに、バイタルサイン測定、検査・処置の 準備から実施、片付けまで一連の流れで実施する				
実習評価は成人看護学実習評価表（ルーブリック）に基づき評価する					

科目名	セルフケア実習	時期	3年全期	担当者	椎木美絵 他
		単位数	2	実務経験内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		時間数	80		
実習目的	回復期・慢性期・終末期にある患者の特徴を理解し、健康段階・発達段階に応じた看護援助を実施し、評価することができる				
実習内容					
病院	I. 実習期間：8日間（8：00～15：45）病棟7日間、他部門1日間 II. 実習場所：各病院機関 III. 実習方法 1. 事前学習 1) 事前課題を決められた日時に提出する 2) 技術 7 1 項目を確認しながら技術を練習する 3) 実習要項を熟読しておく 2. 実習内容 1) 実習病棟の特徴を事前に把握しておく 2) 実習初日に臨床指導者より病棟オリエンテーションを受ける 3) 病棟師長または臨床指導者より受け持ち患者紹介をうける 4) 受け持ち患者に挨拶をし、コミュニケーションがスムーズに図れるようにする 5) 情報収集は、カルテだけではなく患者本人とのコミュニケーションを通し得られるよう関わりをもつ 6) 実習中は毎日日々の行動記録を具体的に記載し指導者に助言を仰ぐ 指導後は速やかに追加・修正を行い、再度、助言を仰ぐ（発表） 7) 日々の行動記録にそって看護援助を実施する 実施の際には、アセスメント後計画立案を行い指導・助言後、実施する 8) 実施後は必ず指導者と振り返りを行い、今後の看護援助に活かす 9) 実習中は、指導者と報告・連絡・相談を行い、指導を仰ぎながら主体的に積極的に実施する 10) 実習終了時は、1日の看護援助や患者との関わりについて振り返り、また、目標達成について具体的に簡潔に報告する 11) 実習記録用紙は別途提示する（実習要項参照） 必要時各自で印刷する 12) 実習記録はファイルに綴り整理し紛失しないよう留意する また、患者の病室、コンビニ等で閲覧しない メモ帳に関しては必ずフック付きのチェーンまたは紐を通す 13) 学生カンファレンスは病棟実習終了後、30分テーマ設定を行い実施する 中間・最終カンファレンスは指導者と日程調整を行い指定場所で行う 14) 指導者より記録物やレポート提出を求められたら、必ず、期日を順守する 15) 実習進捗については、実習要領を確認する				
	シミュレーション実習	I. 実習期間：病院実習前後8時間 II. 実習場所：学内実習室 III. 実習方法 1. 実習前シミュレーション実習 1) シミュレーターでバイタルサイン測定が正確にできるようタスクトレーニングを実施する 2) 発達段階に応じたコミュニケーションを練習する 2. 実習後シミュレーション実習 1) 受け持ち患者の事例をもとに、バイタルサイン測定、検査・処置の準備から実施、片付けまで一連の流れで実施する			
実習評価は成人看護学実習評価表（ルーブリック）に基づき評価する					

科目名	老年看護学実習Ⅰ	時期	2年後期	担当者	日置敦子 他
		単位数	2	実務経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		時間数	80		
実習目的	健康障害のある老年期の対象と家族を理解し、健康障害が及ぼす影響や日常生活上の問題を総合的にアセスメントし、様々な健康レベルにある高齢者に応じた看護を実践することができる				
実習内容					
Ⅰ．実習期間：9日間（8:00～15:45） Ⅱ．実習場所：病院 Ⅲ．実習方法 1．事前学習 1）事前課題を決められた日時に提出する 2）技術 7 1 項目を確認しながら技術を練習する 2．実習内容 1）一人の患者を受け持ち、情報収集、情報のアセスメント、強みと問題点の抽出、ケア計画の立案、ケア計画の実施、評価の一連の看護過程を通し健康レベルに応じた看護の実践を行う 2）受け持ち患者の発達段階の特徴や病態生理につながる事前学習を行い、アセスメントに活用する 3）所定の記録用紙を用いて、受け持ち患者の情報を整理し、患者理解を深める 4）受け持ち患者の強みと問題をアセスメントし、問題解決に向けて看護計画を立案できる 5）看護計画に基づき、看護の実践を行う 6）日々のカンファレンスを通し、老年看護に対する看護観を深めることができる 7）実習最終日、「実習を通しての学びと今後の課題」「自分が考える老年観」のテーマで最終カンファレンスを行う 3．実習評価 1）老年看護学実習Ⅰ評価表に基づき評価を行う ※詳細は、老年看護学実習Ⅰ要項参照					
実習評価は老年看護学実習評価表（ルーブリック）に基づき評価する					

科目名	老年看護学実習Ⅱ	時期	3年全	担当者	榮琴恵 他
		単位数	1	実務経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		時間数	40		
実習目的	施設で生活する高齢者の生活の場と健康レベルの多様性を理解し、老年期の特徴や家族を支えるために必要な保健医療福祉に携わる職種の連携・協働と看護の役割を学ぶ				
実習内容					
Ⅰ．実習期間：4日間（8:00～15:45）、4時間(9：00～12：00) Ⅱ．実習場所：介護老人保健施設、特別養護老人ホーム、高齢者福祉センター Ⅲ．実習方法 1．事前学習 1) 事前課題を決められた日時に提出する 2) 技術71項目を確認しながら技術を練習する 2．実習内容 1) コミュニケーションが図れ日常生活援助を必要とする対象者を1名受け持つ。 2) 所定の記録用紙やコミュニケーションから対象者の生活史に目を向け、対象を理解する 3) 高齢者の健康問題と生活機能障害の要因・経過が理解でき、継続的・予防的な看護実践について関与することができる 4) 高齢者とのコミュニケーションや援助など様々な場面の中で、学生自身の感情や態度をプロセスレコードを用いて考察しながら、高齢者とのコミュニケーションの取り方を学び、自己の課題を明確にする 5) 老年期の特性をふまえた意図的なコミュニケーションができる 6) さまざまな職種との連携・協働のあり方や保健医療福祉の役割や社会資源の活用を理解する 7) 日々のカンファレンスを通し、自己の老年観を深めることができる 8) 実習最終日、「施設の特徴と実際の看護援助を通して学んだこと」「高齢者との関わりから考えた自分が考える老年観について」のテーマで最終カンファレンスを行う 3．実習評価 1) 老年看護学実習Ⅱ評価表に基づき評価を行う ※詳細は、老年看護学実習要項Ⅱ参照					
実習評価は老年看護学実習評価表（ルーブリック）に基づき評価する					

科目名	小児看護学実習	時期	3年全期	担当者	四俣芳子 他
		単位数	2	実務経験	看護師として勤務した経験をもとに講
		時間数	80	内容	義を行う。
実習目的	小児の特徴を理解し、健康と成長・発達が促進されるよう小児とその家族の看護に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する				
実習内容					
保育園	Ⅰ. 実習期間：9日間のうちの4日間（8:00～15:45）				
	Ⅱ. 実習場所：保育園・幼稚園				
	Ⅲ. 実習方法				
	1. 事前学習				
	1) 事前課題を決められた日時に提出する				
	2) 技術 7 1 項目を確認しながら技術を練習する				
	2. 実習内容				
	1) 園長・指導者から園のオリエンテーションを受ける				
	2) 毎日ローテーションし、年齢の異なるクラスに入る(担任の指示を仰ぐ)				
	3) 各クラスに1～2名ずつ入り、幼稚園教諭・担当保育士の指導のもと実習を行う				
病院	Ⅰ. 実習期間：9日間のうちの4日間（8:00～15:45）				
	Ⅱ. 実習場所：病院				
	Ⅲ. 実習方法				
	1. 事前学習				
	1) 事前課題を決められた日時に提出する				
	2) 技術 7 1 項目を確認しながら技術を練習する				
	2. 実習内容				
	1) 患者 1 人を受け持つ				
	2) 実習計画を立て、指導者、教員の指導を受けながら実践する				
	3) 援助は技術 7 1 項目を確認しながら指導者・教員の指導のもと、安全・安楽に行う				
シミュレーション実習	Ⅰ. 実習期間：9日間のうちの半日×2日間				
	Ⅱ. 実習場所：学内実習室				
	Ⅲ. 実習方法				
	1. 実習前シミュレーション実習				
	1) シミュレーターでバイタルサイン測定が正確にできるようタスクトレーニングを実施する				
	2) 発達段階に応じたコミュニケーションを練習する				
	2. 実習後シミュレーション実習				
	1) 受け持ち患児の事例をもとに、バイタルサイン測定、検査・処置の準備から実施、片付けまで一連の流れで実施する				
	病院実習前週の金曜日13：00～16：00				
	病院実習終了翌日9：00～12：00				
実習評価は小児看護学実習評価表（ルーブリック）に基づき評価する					

科目名	母性看護学実習	時期	3年全期	担当者	小林麻美 他
		単位数	2	実務経験 内容	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		時間数	80		
実習目的	妊娠・分娩・産褥期および新生児期にある対象の特徴を理解し、母子およびその家族の健康状態に応じた看護の実践に必要な基礎的知識・技術・態度を養う				
実習内容					
病院 (産婦人科)	Ⅰ. 実習期間 9日間のうち4日間 (8:00～15:45) Ⅱ. 実習場所 病院／産婦人科 Ⅲ. 実習方法 病棟・外来・分娩・手術スケジュールにより、各々で実習スケジュール内容の順番が異なるが全ての内容が網羅できるように調整をかけている 1. 受け持ち実習 1) 産褥期の母子を受け持ち看護展開実施 2) 受け持ち対象者がいない場合は、HDP、切迫流産・早産、GDMを、受け持つ場合がある 2. 機能別 (対象別) 実習 1) 外来：2日間の実習で主に初期・中期・後期の妊婦健康診査 (計測・診察) のアセスメント・見学及び介助 ①保健指導 (個人) の見学 ②母親学級・両親学級 (集団指導) の見学 ③2週間健診・1ヶ月健診の見学 ④各種レッスンへの参加 2) 分娩室：分娩期 (Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ期) の看護及び分娩進行管理見学 (CTG判読・内診・輸液管理・バルトグラム記載等) ・分娩介助・胎盤計測等見学 (必用時、分娩誘発・産科出血対応・新生児蘇生法、緊急C/S、吸引・鉗子分娩等の見学も含む) 3) 手術室：帝王切開術 (硬膜外麻酔／腰椎麻酔・直接介助・麻酔・ベビーキャッチ等の見学) 4) 新生児室：新生児期の看護 ①バイタルサインの測定及び全身状態の観察 ②抱っこ・オムツ交換・寝衣交換・哺乳瓶による授乳実施・直接母乳介助見学 ③沐浴の実施 5) 医師・助産師等によるモニターカンファレンスへの参加・見学 ※毎日、カンファレンスを実施し、1・2週目最終日には、それぞれ中間カンファレンス・終了カンファレンスを行う				
	Ⅰ. 実習期間：9日間のうち2日間 (8:00～15:45) Ⅱ. 実習場所：病院／新生児内科 (NICU) Ⅲ. 実習方法 1. 事前学習 1) 事前課題を決められた日時に提出する 2. 実習内容 1) 病棟オリエンテーションを受ける (医師・病棟師長) ①ハイリスク新生児医療及び周産期医療システム／NICU／GCUの役割について ②NICU・GCUの看護の実践を見学実習：病棟スタッフとカンファレンスを行い、リフレクションをする ※実習評価：母性看護学実習評価表に基づき評価を行う (詳細は、母性看護学実習要項参照)				
	Ⅰ.実習期間：9日間のうち8時間 Ⅱ.実習場所：子育て支援施設 Ⅲ.実習方法 子育て支援施設において、地域で生活する母子をどのように継続支援されているか、オリエンテーションや実際を見学し理解する				
シミュレーション	Ⅰ. 実習期間：9日間のうちの×2日間 Ⅱ. 実習場所：学内実習室 Ⅲ. 実習方法 1. 実習前シミュレーション実習 1) シミュレーターでバイタルサイン測定・計測・触診・新生児沐浴等が正確にできるようタスクトレーニングを実施する 2) 妊娠期・分娩期・産褥期に応じたコミュニケーションを練習する 2. 実習後シミュレーション実習 1) 受け持ち妊産婦・新生児の事例をもとに、バイタルサイン測定、検査・診察介助・処置・準備から実施、片付けまで一連の流れで実施する ※実習評価は、母性看護学実習評価表 (ルーブリック) に基づき評価する				

科目名	精神看護学実習	時期	2年後期	担当者	島繁久 他
		単位数	2	実務経験	看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		時間数	80	内容	
実習目的	精神疾患患者の特徴を理解し、健康回復が促進されるよう対象者とその家族の看護に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する				
実習内容					
デイケア	I. 実習期間：9日間のうちの2日間（8:00～15:45） II. 実習場所：デイケア III. 実習方法 1. 事前学習 1) 事前課題を決められた日時に提出する 2) 技術 7 1 項目を確認しながら技術を練習する 2. 実習内容 1) 施設長・指導者からデイケアのオリエンテーションを受ける 2) 毎日、行事に従って役割をはたす(担任の指示を仰ぐ) 3) 各グループに1～2名ずつ入り、実習指導者のもと実習を行う 4) 通園者を観察しながら、実習指導者の指導のもと日常生活援助を行う 5) 実習記録は実習 2 日目から前日担当の実習指導者に各自提出する 6) 実習最終日、「実習を通しての学び・気づき」のテーマで終了カンファレンスを行う				
病院	I. 実習期間：9日間のうちの4日間（8:00～15:45） II. 実習場所：病院 III. 実習方法 1. 事前学習 1) 事前課題を決められた日時に提出する 2) 技術 7 1 項目を確認しながら技術を練習する 2. 実習内容 1) 患者 1 人を受け持つ 2) 実習計画を立て、指導者、教員の指導を受けながら実践する 3) 援助は技術 7 1 項目を確認しながら指導者・教員の指導のもと、安全・安楽に行う 4) 毎日カンファレンス（15:00～15:30）を実施し、実習最終日は終了カンファレンスを行う ※詳細は、精神看護学実習要項参照				
就	I. 実習期間：10日間のうち2日間(8：00～15：45) II. 実習場所：訪問看護ステーション、就労支援事業所				

III. 實習方法

精神に障害を抱える人にたいする、訪問看護や就労支援の実際を理解するため
関わり方を学び、同行訪問やコミュニケーションを行う

実習評価は精神看護学実習評価表（ルーブリック）に基づき評価する

科目名	統合実習	時期	3年後期	担当者	有村かおり 他 看護師として勤務した経験をもとに講義を行う。
		単位数	3	実務経験 内容	
		時間数	120		
科目目標	1. 看護部の役割、病棟看護師長の役割を理解し、病棟管理の実際や、他部門との調整を通して看護管理の実際を学ぶ 2. チームリーダー及びメンバーの役割を理解し、業務の調整や、医師や他部門との連携及びチームの一員としての役割が理解できる 3. 一勤務帯、夜間帯,複数受け持ち実習などを経験することにより、実務での看護の実際を理解する 4. 複数受け持ち患者の状況をアセスメントし、ケアの優先順位の判断や、時間管理をすることで適切な看護が実践できる 5. 看護業務におけるリスクを予測し、安全な看護を提供するための方法を理解する 6. チームの一員としての自覚と責任感及び倫理観が確立でき、専門職として働くうえでの自己の目標や課題を明確にできる				
実 習 内 容					
学内	Ⅰ. 実習期間 ： 13.5日間 （臨地： 12日間 ）（学内：1.5日間） Ⅱ. 実習場所 ： 臨地 学内 Ⅲ. 実習方法 1. 事前学習 1) 事前課題を決められた日時に提出する 2) 技術7 1項目を確認しながら技術を練習する 2. 臨地及び学内指導内容 1) 学内 (1)オリエンテーション 事例を元に技術演習実践 振り返り（まとめ） (2)シミュレーション モデル人形を使用して診療の補助技術実践				
臨地	2) 臨地 (1)看護部門の組織に関するオリエンテーションを受ける (2)病棟看護師長より管理業務のオリエンテーションを受ける (3)病棟看護師長に付いて、病棟管理業務の実際を見学する (4)日勤業務についてコーディネーターに付いて見学する (5)複数受け持ち看護師と共に看護実践を見学する (6)患者の情報収集及び治療・処置、実施されている看護援助把握をする (7)情報収集をもとにアセスメントし、看護問題を抽出、看護計画を立案する (8)複数受け持ちの優先度の考え方や時間調整の方法を見学し計画に生かす (9)一勤務帯・夜間実習での体験をとおして受け持ち患者の理解を深めることができる (10)診療の補助業務の見学をとおして、安全・正確・効率的実施を学ぶ (11)実習を通して自己の目標や課題を明確にできる				
授業計画	実習要項とおり				
備考	実習の進捗状況により内容変更もあります。その場合事前に周知します。 グループの概要 ： 4人～5人/ 1グループ				